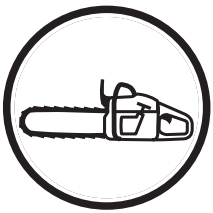
取扱説明書

395XP



Japanese

本機をご使用になる前にこの取扱説明書を注意深くお読みいただき、
内容を必ずご確認ください。

シンボルマークの意味

チェンソーに表記されるシンボルマーク:

警告!チェンソーには危険がつきものです。不注意な取り扱いや誤った取り扱いは作業者や周囲の人などに深刻な、時には致命的な傷害を引き起こすことがあります。

チェンソーをご使用になる前にこの取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

常に下記のものを着用してください。

- 承認されたヘルメット
- 承認されたイヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー

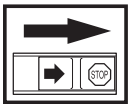
この製品は EC 指令に準拠しています。

環境に対する騒音レベルは EC 指令に準拠。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。

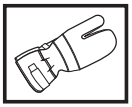
その他のシンボルやステッカーなどは、諸地域固有の各種基準に対応したものです。

取扱説明書に表記されるシンボルマーク:

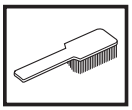
点検やメンテナンスを行うときは、まずストップスイッチを STOP の位置にして、エンジンを切ってください。



常に承認された保護手袋を着用してください。



定期的な清掃が必要です。



目視点検

保護メガネまたはバイザーを必ず着用してください。

チェンオイル補充と流量調節

チェンソーを始動する際は、必ずチェンブレーキをかけておいてください。

警告!キックバックは、ガイドバーの先端に何かが接触したときに起こり、ガイドバーを上方向または使用者に向かってキックし一瞬の速さで後ろ方向に反動させる原因となります。重傷の原因となります。

目次

シンボルマークの意味
チェンソーに表記されるシンボル マーク: 2
取扱説明書に表記されるシンボル マーク:..... 2
目次
目次..... 3
はじめに
お客様へ..... 4
各部名称
チェンソーの各部名称 5
安全な使用について
新しいチェンソーをお使いになる前に 6
重要..... 6
いつも常識のある取り扱いを..... 7
使用者の身体保護具..... 7
チェンソーの安全装置 7
カッティング装置..... 10
組み立て
ガイドバーとチェンの取り付け..... 16
燃料の取り扱い
燃料..... 17
給油..... 18
燃料の安全について 18
始動と停止
始動と停止..... 19
作業技術
使用前に、以下の項目を点検してください。 21
一般的な作業方法 21
キックバックの避け方 27
メンテナンス
キャブレターの調整..... 29
可動リミッターを搭載しているキャブレター..... 29
可動リミッターを搭載していないキャブレター 30
チェンソーの安全装置の点検、メンテナンス、
サービス..... 32
マフラー 34
スターター装置..... 34
エアフィルター..... 35
スパークプラグ 36
ノーズスプロケットの潤滑 36
ニードルベアリングの注油..... 36
オイルポンプの調整 36
冷却システム 37
遠心力クリーニング「エア・インジェクション」..... 37
冬期の使用..... 37
ヒーティングハンドル..... 38
メンテナンスのスケジュール..... 39
主要諸元
主要諸元..... 40
ガイドバーとチェンの組み合わせ..... 41
チェンソーのヤスリがけとファイルゲージ 41
EC 適合宣言..... 42

はじめに

お客様へ

ハスクバーナの製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ハスクバーナの歴史は、スウェーデン王のカール 11 世がハスクバーナ川の岸辺にマスケット銃の製造を目的とした工場の建設を命じた 1689 年に遡ります。その立地は、ハスクバーナ川の水力を動力源とする工場を建設するために適していました。その後、300 年以上に渡り、ハスクバーナの工場は薪ストーブから最新のキッチン用品、ミシン、自転車、オートバイに至る製品の数々を生産してきました。1956 年に最初のエンジン式芝刈機が登場し、それが 1959 年のチェンソーへと続き、これが現在のハスクバーナの取り扱う製品分野になっています。

今日、ハスクバーナは品質を最優先として、林業や造園業務用機器のメーカーとして世界をリードしています。ハスクバーナは、建築や建設産業の他、農林および造園向けのエンジン駆動製品を開発し、製造販売しています。ハスクバーナ社は人間工学、有用性、安全性、さらには環境保護に基づいた業界の最先端に位置づけることもその使命にあげています。様々な機能を開発しこれらの分野で当社の製品を皆様に提供するのはこの概念が根底にあるからです。

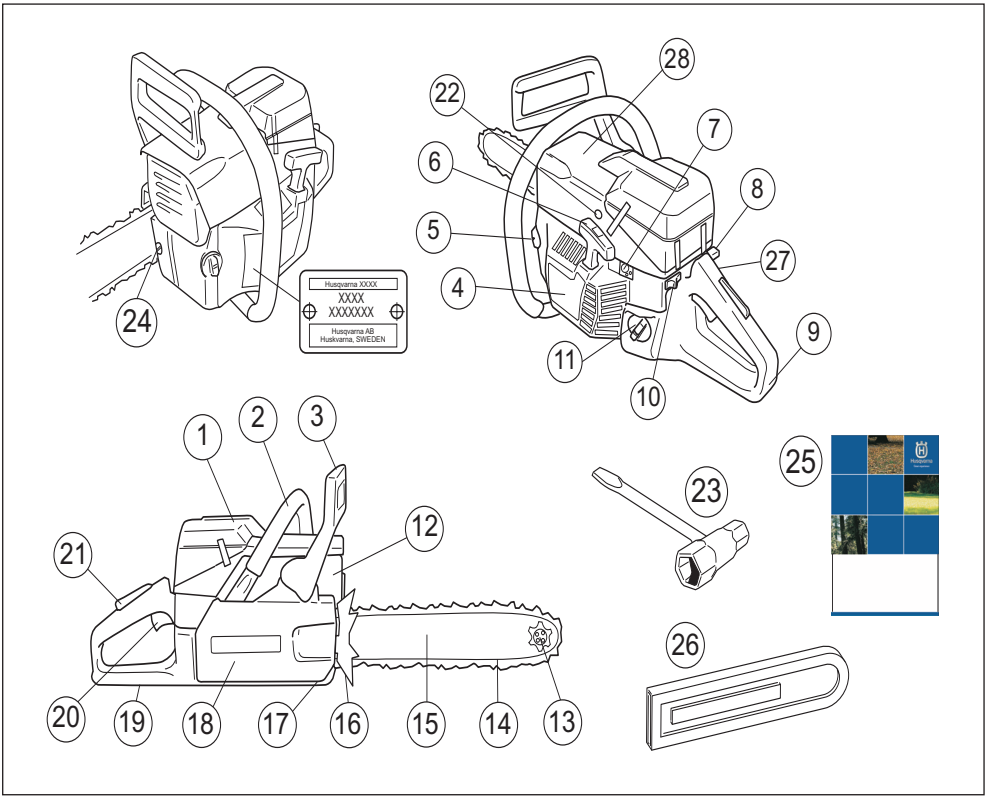
弊社はお客様が弊社の製品の品質および性能にいつまでもご満足いただけることと確信を持っております。弊社の製品をご購入いただくことにより、必要なときにプロの修理および整備をご利用いただけます。お買い上げになった販売店が正規代理店でない場合は、その販売店に最寄のサービスショップの所在地をお問い合わせください。

本製品にご満足いただき、末永くご愛顧いただけることを願っております。取扱説明書は大切な書類です。説明書の記載内容 (使用方法、サービス、メンテナンスなど) に従うことにより、本機の寿命を延ばし、転売時の価値を高く維持することができます。本機を転売する場合は、必ず取扱説明書を同梱してください。

ハスクバーナの製品をご購入いただき誠にありがとうございます。お客様に安心して製品をお使いいただくため、製品登録をお願いいたします。製品をお使いいただくために欠かせないサポートサービスや緊急情報の提供は、登録されたお客様のみ対象となります。ご利用の前に必ずご登録ください。www.jp.husqvarna.com

ハスクバーナは継続的に製品の開発を行っています。そのため、設計や外見などが予告なく変更されることがあります。

各部名称



チェンソーの各部名称

1 シリンダカバー
2 フロントハンドル
3 フロントハンドガード
4 スターター
5 チェンオイルタンク
6 スターターハンドル
7 キャブレター調整ネジ
8 チョークコントロール/スタートスロットルロック
9 リヤハンドル
10 ストップスイッチ(イグニション ON/OFF スイッチ)
11 燃料タンク
12 マフラー
13 ノーズスプロケット
14 チェン
15 ガイドバー
16 スパイクバンパー
17 チェンキャッチャー（チェンが飛んだり破損した場合にキャッチします。）
18 クラッチカバー
19 右手ガード（チェンが飛んだり破損した場合に右手を保護します。）
20 スロットルトリガー
21 スロットルロック (スロットルトリガーの万が一の動作ミスを防止します。)
22 デコンプバルブ
23 コンビレンチ
24 チェンの張り調整ネジ
25 取扱説明書
26 トランスポートガード
27 ヒーティングハンドル用のスイッチ（395XPG）
28 情報と警告ラベル

新しいチェンソーをお使いになる前に

- 取扱説明書をよくお読みください。
- ガイドバーとチェンが正しく装着・調整されていることを確認してください。「組み立て」の説明を参照してください。
- 決してチェンソーを宙に浮かせて始動しないでください。「燃料の取り扱い」および「始動と停止」を参照してください。
- チェンオイルがチェンに十分な皮膜を作るまで、チェンソーを使わないでください。「ガイドバーとチェンの潤滑」を参照してください。
- 長時間または継続的に大きな騒音にさらされると、恒久的な聴覚障害の原因となることがあります。本機を使用する際は、承認を受けたイヤマフを必ず着用してください。

警告!いかなる理由であれ、製造者の承認を得ることなくチェンソーの設計に変更を加えないでください。常に純正の部品をお使いください。不認可の設計変更や付属品は、使用者やその他の人の重傷や致命傷の原因となることがあります。

警告！不注意な取り扱いや誤った取り扱いをすると、チェンソーは危険な道具となり、重傷や時には致命傷の原因となります。本書をよくお読みになり、内容を理解することが非常に重要です。

警告!マフラーには発ガン成分となり得る化学物質が使われています。万が一マフラーが損傷した場合、これらの物質に触れないようにしてください。

警告!エンジンの排気ガスやチェンオイルのミスト、切りくずの粉塵などを長期間にわたって吸引すると、健康を害する原因となることがあります。

警告！チェンソーのイグニションシステムは、操作中に電磁界を生成します。この電磁界は、ある状況下ではペースメーカーに支障を来たすことがあります。深刻なまたは致命傷の危険を避けるため、ペースメーカーを使用している人がチェンソーを操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することをお勧めします。

警告!チェンソーを子供に使用させたり、チェンソーの付近に子供を近づけたりしないでください。チェンソーのストップスイッチにはスプリングが内蔵されており、スターターハンドルを低速度で引いてもエンジンを始動させることができます。小さな子供であっても、一定の状況においてはチェンソーを始動させるために必要な力を与えることがあります。重大な身体的傷害を引き起こす危険があります。そのため、チェンソーを監視できない場合には、スパークプラグキャップを取り外しておいてください。

重要

重要!

チェンソーは木材の鋸断のみを行う機械です。

主要諸元の章で推奨するバーとチェンの組み合わせのソーのみをご使用ください。

疲労時や飲酒後、視野・判断力・動作に影響を及ぼすような医薬品を服用したときは絶対に本機を使用してはいけません。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

本製品を改造したり、改造の疑いがある製品を使用しないでください。

欠陥のあるチェンソーは絶対に使用しないでください。本書の内容に従って、点検、メンテナンス、サービスを行ってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、専門家でなければできないものもあります。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

本書指定の付属品以外の部品を使用しないでください。詳細は「ガイドバーとチェン」、「主要諸元」を参照してください。

注意!常に保護メガネあるいはバイザーを着用し、飛び散る物体による損傷を防いでください。チェンソーは大きな力で木屑、木片などを飛ばすことがあります。これにより重傷を負うことがあります。特に目のケガの原因になることがあります。

警告!密室や換気の悪い場所でエンジンをかけると窒息死や一酸化炭素中毒の原因となることがあります。

警告!ガイドバーとチェンに欠陥があったりガイドバーとチェンソーの組み合わせが誤っていると、キックバックの危険性が高くなります!弊社の推奨するバーとチェンの組み合わせで使用し、指示通りにヤスリをかけてください。詳細は、「主要諸元」を参照してください。

いつも常識のある取り扱いを

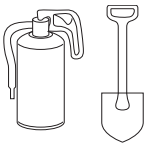
チェンソーをご使用の際に起こりえるすべての状況をすべて説明するのは不可能です。常に注意を払い、常識にかなった使用方法で操作してください。使用者の能力範囲外であると思われる場合は、操作を行わないでください。これらの注意事項を読んだ後、不明な点がありましたら、続行せずに専門コンサルタントにご相談ください。チェンソーの使用方法についてご質問があるときはお気軽に代理店または弊社までご連絡ください。お持ちのチェンソーを効率よくまた安全に使用する方法やアドバイスを提供いたします。できればチェンソーの使用方法のトレーニングを受けてください。代理店、農林学校、図書館などでトレーニング用資料や講習授業についての情報を提供しています。

弊社では皆様の安全と作業の効率性を向上させるため、常にデザインや技術の改善に努力を続けています。定期的に代理店へ訪れて役立つ新機能があるか確認してください。

使用者の身体保護具

警告!チェンソー事故の大半は、チェンが使用者に当たった際に発生します。本機を使用する際は、承認を受けた身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具の選択については、チェンソーの販売店にご相談ください。

- 承認されたヘルメット
- イヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー
- チェンソー用防護手袋
- チェンソー用防護ズボン
- チェンソー用防護靴、つま先部スチール製、ノンスリップ靴底
- 常に救急箱を身近に備えてください
- 消火器およびシャベル



一般的に、動きの自由な体に合った衣服

重要! マフラー、バーとチェンあるいはその他の箇所からスパークが発生することがあります。常に消火装置を備え、必要なときにすぐ使えるようにしてください。森林火災の防止に役立ちます。

チェンソーの安全装置

このセクションでは本機の安全装置とその機能について説明します。詳細は「安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。お手持ちのチェンソーの部品の位置については「各部名称」を参照してください。

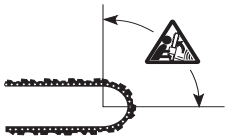
本機のメンテナンスを適切に行わなかったり、整備・修理を専門技術者に依頼しないと機械の寿命を縮め、事故の起こる危険性が増大します。詳細はお近くのサービスショップにお問い合わせください。

警告!安全装置に欠陥のあるチェンソーは決して使用しないでください。安全装置は必ず点検しメンテナンスを行ってください。詳細は「安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。チェンソーがすべての点検に合格しない場合、チェンソーをサービス代理店にお持ちいただき修理をご依頼ください。

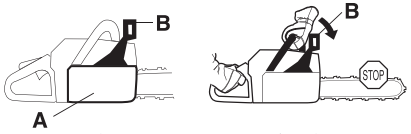
チェンブレーキとフロントハンドガード

このチェンソーにはチェンブレーキが備わっており、キックバックが発生した場合、直ちにチェンを停止します。チェンブレーキは事故発生の危険性を軽減しますが、何よりも大切なのは慎重な取り扱いです。

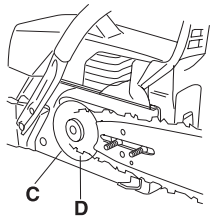
チェンソーの使用に当たっては、ガイドバーのキックバックゾーンが他の物に触れることのないよう、注意してください。



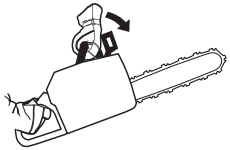
- チェンブレーキ (A) の作動には、手動式（左手を使う）とイナーシャ機構（チェンソーにかかる振り子運動力を応用）による自動式があります。
- チェンブレーキは、フロントハンドガード (B) が前へ倒れるとかかります。



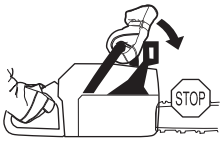
- この動きにバネを使用したメカニズムが反応し、エンジン駆動装置（クラッチドラム） (D) 周囲のブレーキバンド (C) が締まります。



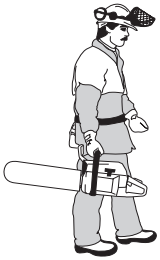
- フロントハンドガードは、チェンブレーキをかけるためだけのものではありません。前ハンドルを持つ左手が滑ったときに、手がチェンに当たるのを防ぐという重要な役割もあります。



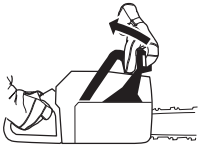
- チェンソーを始動する際は、必ずチェンブレーキをかけておいてください。



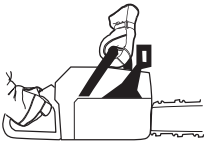
- チェンソーを始動したときや短い距離を移動するとき、チェンを誤って作動してご自身の足、周囲の人や物体にぶつけてしまう危険性を減少させるためにチェンブレーキを「パーキングブレーキ」として使用してください。



- チェンブレーキを解除するにはフロントハンドガードを後ろへ、つまり前ハンドルの方へ引きます。



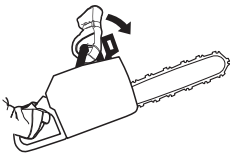
- キックバックは突然強い力で起こることがあります。キックバックのほとんどは弱いもので、いつもチェンブレーキが自動的にかかるとは限りません。このような場合はチェンソーをしっかり握り、コントロールを失わないようにしてください。



- チェンブレーキの作動が手動式によるものかイナーシャ自動式によるものかは、キックバックの強さと、ガイドバーのキックバックゾーンに触れた物とチェンソーとの位置関係によって左右されます。

  キックバックゾーンが身体から最も離れた位置にあると、チェンブレーキはキックバックの方向におけるカウンターウェイト（イナーシャ式）の働きで作動します。

  キックバックが比較的弱い場合やガイドバーのキックバックゾーンが身体から近い位置にあるときは、左手による操作でチェンブレーキをかけてください。



- 伐倒ポジションでは左手をチェンブレーキが手動で作動できない位置に置くことになります。このような左手の握り方によりフロントハンドガードを操作できない

場合は、イナーシャ機構の作動によってのみチェンブレーキがかかることになります。

キックバックが起こると常に手でチェンブレーキを作動できますか?

いいえ。ハンドガードを前方に動かすにはある程度の力を必要とします。フロントガードに軽く触れたり、手が滑ったぐらいでは、チェンブレーキがかからない場合があります。作業を行うときはチェンソーのハンドルをしっかり握って操作してください。キックバックを経験すると、手は前ハンドルから離れず、チェンブレーキを作動させることができなくなります。またチェンソーがかなり離れた場所に揺れ動くまでチェンブレーキがかからないことがあります。このとき、チェンブレーキによってチェンの回転が止まる前に使用者にチェンがぶつかることがあります。

フロントハンドガードに手が届かずチェンブレーキを作動できない姿勢をとることもあります。チェンソーを伐倒ポジションで抱えるときがその例です。

キックバックが起こるとイナーシャは常にチェンブレーキに作動しますか?

いいえ。まず、ブレーキは正常に作動していなければなりません。ブレーキのテストは簡単にできます。詳細は「安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。毎回、作業を行う前に点検することをおすすめします。次ににキックバックは十分強くないとチェンブレーキがかかりません。ただし、チェンブレーキの感知が高すぎると、イナーシャが常に作動することになり、作業の障害となります。

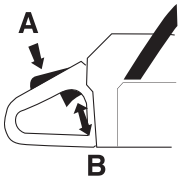
チェンブレーキをかけるとキックバックが起こったとき使用者は絶対に怪我を防ぐことができますか?

いいえ。保護機能を作用させるには、まず、チェンブレーキは正常に機能することを確認してください。二番目にチェンの作動を停止するには上記のようにキックバック中に作動させる必要があります。三番目にチェンブレーキは作動させることができてもガイドバーが使用者に近すぎてチェンの回転速度を落としたり停止させるまでに時間がかかりチェンソーが使用者を打撃することがあります。

使用者が正しい操作方法で使用する場合にのみキックバックとその危険性を防ぐことができます。

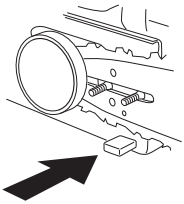
スロットルロック

スロットルロックはスロットルトリガーの操作ミスを防ぐためのものです。スロットルロック (A) を押える（ハンドルを握る）とスロットルトリガー (B) が開放されます。ハンドルから手を放すと、スロットルトリガーとスロットルロックはともに元の位置に戻ります。この構造はつまり、アイドリングではスロットルトリガーが自動的にロックされることを意味します。



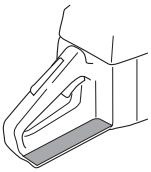
チェンキャッチャー

チェンキャッチャーは、チェンが破断したり外れたりしたときに受け止める役割をします。ただし、チェンの張り具合が適正で（「組み立て」参照）、ガイドバーとチェンの保守サービスが正しく行われている場合（「一般的な作業方法」参照）、チェンが破断したり外れたりすることはありません。



右手ガード

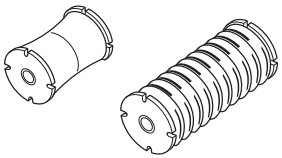
チェンが破断したり外れたりしたときに手を守るだけでなく、大小の枝などが右手に当たってじゃまになるのを防ぎます。



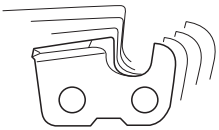
防振装置

本機には防振装置がついており、振動をやわらげ操作しやすいようになっています。

本機の防振装置は、エンジンやチェンからハンドルへ伝わる振動を軽減します。チェンソー本体とチェン部に振動軽減ユニットを取り付け、ハンドルを振動から守っています。



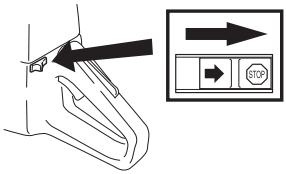
また、硬木（広葉樹のほとんど）は軟木（針葉樹のほとんど）より振動が激しくなります。刃先が丸くなっていたりチェンに不具合（不適なタイプや目立てが悪いなど）がある場合も、振動がさらに大きくなります。



警告!循環器系に障害のある人が振動を長期間受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。振動が原因と思われる症状が出たときは、医師に相談してくださ い。症状にはしびれ、感覚まひ、うずき、ちくちくする痛み、刺すような痛み、力が入らない、皮膚の色の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。この症状は低温の環境下でよく起こります。

ストップスイッチ

ストップスイッチはエンジンを切るときに使用します。

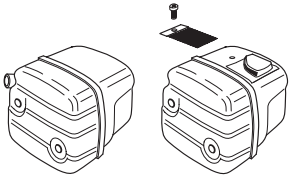


マフラー

マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。

警告!エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となり得ます。屋内や可燃物の傍では、決して本機を始動しないでください!

気候が高温・乾燥の地域では、山火事の危険性が高くなります。これらの地域では法的規制により、承認されたタイプのスパーク防止ネットをマフラーに装備することが他の条件と並んで義務付けられている場合があります。



注意! 触媒コンバーター付きのマフラーは、使用中および使用直後ともに非常に熱くなります。このことはアイドリング中にも該当します。特に可燃物や可燃性ガスの近くで作業をするときは、火災の危険性に注意してください。

警告!マフラー無しのチェンソーや欠陥のあるマフラーを装着したチェンソーは決して使用しないでください。マフラーに損傷があると騒音レベルや火災の危険性が高くなります。消化装置をお手元に装備してください。スパーク防止ネットを必要する条件下では、スパーク防止ネット無しで、あるいは破損したスパーク防止ネットを付けて使用しないでください。

ガイドバーとチェン

この章では、下記の 4 点を達成するためのガイドバーとチェンの選び方、手入れの方法について説明しています。

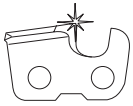
- キックバックの危険性を低減する。
- チェンが破断したり外れたりする危険性を低減する。
- 最大の鋸断性能を引き出す。
- ガイドバーとチェンの耐用年数を延ばす。
- 振動レベルが上がる操作は避けてください。

一般的な注意事項

- 弊社指定のガイドバーとチェンのみをお使いください! 詳細は「ガイドバーとチェン」、「主要諸元」を参照してください。

- チェンの目立てを正しく行ってください! 指示に従い、指定のファイルゲージをご使用ください。損傷が

あるチェンや目立ての悪いチェンは、事故の危険性を高めます。



- デプスゲージの高さを適正に保ってください! 指示に従い、指定のデプスゲージをご使用ください。デプスゲージが大きすぎると、キックバックの危険性が高くなります。

- チェンの張り具合を適正に保ってください! チェンにたるみがあると外れやすくなり、ガイドバーやチェン自体、またドライブスプロケットの摩耗が進行する原因となります。

- ガイドバーとチェンの潤滑状態を良好に保ち、正しいメンテナンスを行ってください! 潤滑状態の悪いチェンは破断しやすく、ガイドバーやチェン自体、ドライブスプロケットの摩耗が進行する原因となります。

キックバックを最小限に抑えるガイドバーとチェン

警告!ガイドバーとチェンに欠陥があったりガイドバーとチェンの組み合わせが誤っていると、キックバックの危険性が高くなります! 当社の推奨するガイドバーとチェンの組み合わせのみを使用し、ヤスリのかけ方の指示に従ってください。詳細は「ガイドバーとチェン」、「主要諸元」を参照してください。

キックバックを避ける唯一の方法は、ガイドバーのキックバックゾーンに物が触れないようにすることです。

防キックバック設計のガイドバーとチェンを使用する、チェンの目立てを怠らず行き届いた手入れをする、などでキックバック現象を軽減することができます。

ガイドバー

先端の半径が小さいほどキックバックが起こる確率は減ります。

チェン

チェンは多数のリンクで構成されています。リンクの種類には標準タイプと低キックバックタイプとがあります。

重要! いかなるチェンの設計でもキックバックの危険が潜在します。

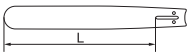
警告!回転しているチェンを触ると重傷を負う原因になります。

ガイドバーとチェンについて

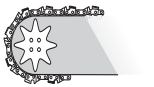
本機の安全機能を維持するために、磨耗や損傷のあるガイドバーまたは弊社指定のガイドバーとチェンの組み合わせからなるチェンを交換してください。弊社が推奨するガイドバーとチェンの組み合わせの交換リストに関する詳細は「主要諸元」を参照してください。

ガイドバーが ～ インチの場合

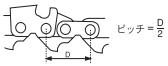
- 長さ(インチ/cm)



- ノーズスプロケットの刃の数 (T)。

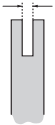


- チェンピッチ(インチ) ドライブリンク同士の間隔と、ノーズスプロケットの刃とドライブスプロケット間の間隔とが一致するようにしてください。

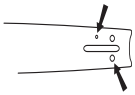


- ドライブリンクの数 ドライブリンクの数は、ガイドバーの長さ、チェンピッチ、およびノーズスプロケットの刃の数によって決まります。

- ガイドバーのレール溝幅(インチ/mm) レール溝の幅は、チェンのドライブリンクの幅と一致するようにしてください。

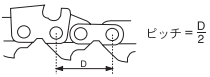


- チェンオイル孔とチェンテンショナ孔 ガイドバーはチェンソーの設計に合わせてください。

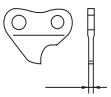


チェン

- チェンピッチ(インチ)



- ドライブリンクの幅(mm/インチ)

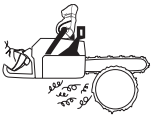


- ドライブリンクの数

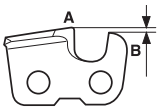
チェンの目立てとデプスゲージ設定の調整

刃の目立てについて

- 刃先の丸くなったチェンを使わないでください。チェンの刃が丸くなっているかどうかは、ガイドバーを押し付けないと切り込まない、切りくずが非常に小さい、などの現象で判断できます。極端に鈍い刃の場合、木くずではなくではなく木粉が発生します。
- 目立てのよい鋭い刃は抵抗なく木に切り込み、長く大きな木くずが出ます。

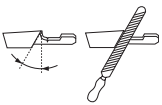


- チェンの木を切る部分をカッターと呼び、刃 (A) とデプスゲージ (B) から成っています。切り込みの深さは、この 2 つの高さの差（デプスゲージの設定）によって決まります。

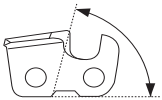


刃の目立てに当たっては、下記の 5 つの点に注意してください。

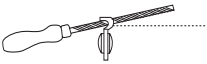
1 目立て角度



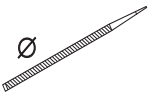
2 切削角度



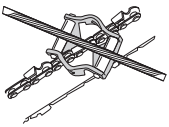
3 ヤスリの位置



4 丸ヤスリの直径



チェンの目立てを正しく行うには、正しい道具が必要です。弊社では、弊社製のファイルゲージをおすすめします。ファイルゲージの使用でキックバックの発生を最小限に抑え、チェンの性能を引き出すことができます。

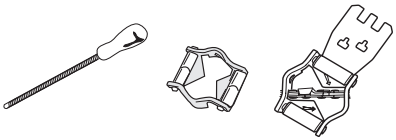


目立ての詳細については、「主要諸元」を参照してください。

警告!押し切りではキックバックが起こりやすくなります。

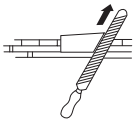
刃の目立て

目立てには丸ヤスリとファイルゲージが必要です。お持ちのチェンソーに適したヤスリとゲージのサイズについては、「主要諸元」を参照してください。

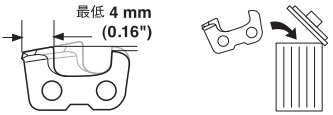


- チェンの張り具合が正しいかどうか点検します。チェンにたるみがあると横滑りを起こし、正しい目立てが難しくなります。

- ヤスリは刃の内側からかけてください。引くときは力を抜いてください。まずすべての刃の片側にヤスリをかけ、次にチェンソーの向きを変えて反対側にヤスリをかけます。

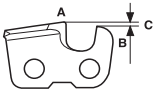


- 刃の長さが揃うようにヤスリをかけてください。長さが 4 mm 以下になった刃は、新しいものと交換してください。



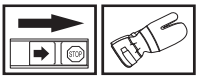
デプスゲージ設定の調整に関する一般的アドバイス

- (A) の目立てを行うと、デプスゲージ (C) が小さくなります。最適な鋸断効果を維持するにはデプスゲージ (B) にヤスリをかけて推奨するデプスゲージ設定が得られている必要があります。お持ちのチェンに適した正しいデプスゲージの設定については、「主要諸元」を参照してください。

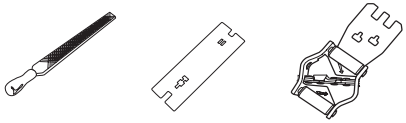


警告!デプスゲージが大きすぎると、キックバック発生の危険性が高くなります!

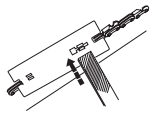
デプスゲージ設定の調整



- チェンの刃はデプスゲージの設定調整を行う前に必ずシャープニングしてください。デプスゲージの調整は、刃の目立て 3 回に 1 回の割合で行うことをおすすめします。注記! これは、刃が著しく短くなっていない場合に限ります。
- 平ヤスリとデプスゲージツールが必要です。デプスゲージの設定を正しく行いデプスゲージの角度を調整するためにデプスゲージツールの使用をおすすめします。



- デプスゲージツールをチェン上に置きます。デプスゲージツールの使用方法についての詳細はデプスゲージツールのパッケージに記載されています。平ヤスリを使用してデプスゲージツールから突き出たデプスゲージの先端をヤスリがけします。デプスゲージツールに沿ってヤスリを引くときに抵抗を感じなくなったら、デプスゲージの設定は正しく調整されています。



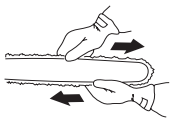
チェンの張り具合

警告!チェンにたるみがあると外れやすくなり、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。

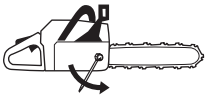
チェンは使用を重ねると次第に伸びてきます。そのため、定期的にチェンを点検してたるみを取ることが重要です。

給油のたびにチェンの張りを点検してください。注記! 真新しいチェンは、慣らし運転の期間が必要です。この期間中は、より頻繁に点検を行ってください。

チェンはできる限り強く張りますが、両手で自由に回せるだけの余裕は残してください。

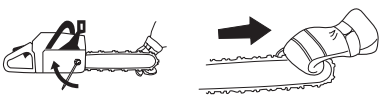


- クラッチカバーとチェンブレーキを固定しているバーナットをゆるめます。コンビレンチを使用してください。次に手で、できる限りきつくナットを締めます。



- ガイドバーの先端を持ち上げ、チェンの張り調整ネジをコンビレンチで締めてチェンを張ります。ガイドバーの下側にチェンが軽く沿うまで、ネジを締め込みます。

- ガイドバーの先端を持ち上げながら、コンビレンチを使用してバーナットを締め込みます。チェンを手で自由に回せること、ガイドバーの下側にたるみがないことを確認してください。



チェンの張り調整ネジの位置は、チェンソーのモデルによって異なります。お持ちのチェンソーの調整ネジの位置を「各部名称」でご確認ください。

ガイドバーとチェンの潤滑

警告!ガイドバーとチェンの潤滑が不十分だとチェンが切れ、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。

チェンオイル

チェンオイルは夏期、冬期の気温差に関わらずその粘性を維持し、チェン表面に滑らかな皮膜を形成しなければなりません。

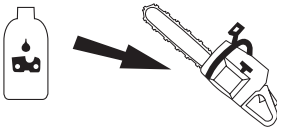
チェンソーのメーカーとして、弊社ではこの条件を満たすチェンオイルを開発しました。植物油をベースとし、生物分解するオイルです。チェンの寿命のためにも環境保護のためにも、弊社製のオイルの使用をおすすめします。弊社製のチェンオイルが入手できない場合は、標準のチェンオイルをおすすめします。

廃油は絶対に使用しないでください! 廃油を使用するのは危険です。チェンソーや環境に損傷を与えます。

重要! 植物油をベースとしたチェンソーオイルを使用したときは、長期の保管前に分解してガイドバーとチェンの溝内を清掃してください。さもないと、チェンオイルが酸化する可能性があり、その結果チェンが硬くなりスプロケットが詰まってしまいます。

チェンオイルの補充

- 弊社のチェンソーはすべて、チェンの自動注油システムを装備しています。またモデルによっては、オイルの流量調節が可能となっています。



- チェンソーオイルタンクや燃料タンクはチェンソーオイルが消費される前に燃料が消費されるように設計されています。

  ただし、この安全設計は正しいタイプのチェンオイルを使用すること（オイルが希薄すぎると燃料より早く切れる）と、キャブレターを指定どおり正しく調整すること（空燃比が希薄だと燃料がオイルより長持ち）、および指定のガイドバーとチェンを使用すること（ガイドバーが長すぎるとより多くのチェンオイルを消費）を前提としています）。

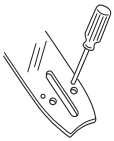
チェン潤滑状態の点検

- 給油のたびにチェンの潤滑状態を点検します。「ノーズスプロケットの潤滑」を参照してください。

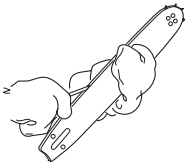
  表面の色が薄い物を、ガイドバーの先端で約 20 cm 離れたところから狙います。3/4 スロットルで約 1 分間運転すると、表面にオイルの線がはっきりと見えるはずです。

チェンの潤滑状態が悪い場合：

- ガイドバーのオイル孔が詰まっていないかどうか点検します。必要に応じて清掃します。



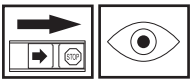
- ガイドバーの端にあるレール溝が汚れていないかどうか点検します。必要に応じて清掃します。



- ノーズスプロケットがスムーズに回転するか、また、スプロケットのオイル孔が詰まっていないかどうか点検します。必要に応じて清掃し、注油します。

上記の通りに手入れしたにもかかわらず潤滑システムが依然として機能しない場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。

チェンドライブスプロケット



クラッチドラムには、次のドライブスプロケットのいずれかが取り付けられています：

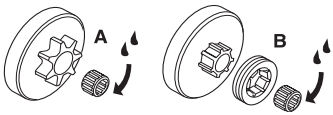
A スパースプロケット（チェンスプロケットをドラムに溶接）

B リムスプロケット（交換可能）

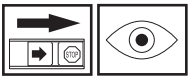
ドライブスプロケットの摩耗度を定期的に点検します。摩耗が激しい場合は交換してください。チェンを交換したら、必ずドライブスプロケットも交換してください。

ニードルベアリングの注油

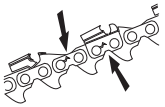
どちらのスプロケットにおいても、ドライブシャフトにニードルベアリングが使用されているため、定期的（週 1 回）の注油が必要です。注意! 高品質のベアリンググリースまたはエンジンオイルを使用してください。



ガイドバーとチェンの摩耗の点検



下記の点に注意してチェンを毎日点検してください。



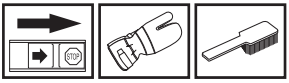
- リベットやリンクにヒビが入っていないか。
- チェンが硬くなっていないか。
- リベットやリンクの摩耗が激しくないか。

上記にあてはまる状態が見受けられたらチェンを交換してください。

ご使用中のチェンと新品のチェンを並べて、摩耗の度合いを比較することをおすすめします。

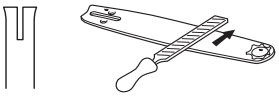
チェンの刃が 4 mm 以下になったら、チェンを交換してください。

ガイドバー



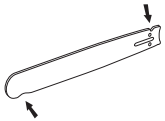
下記の項目を定期的に点検してください：

- ガイドバーの縁にバリがないか。必要に応じヤスリをかけます。



- ガイドバーのレール溝の摩耗が激しくないか。必要に応じガイドバーを交換します。

- ガイドバーの先端が欠けていないか、摩耗が激しくないか。ガイドバーの先端下側にへこみができている場合、チェンのたるみが原因です。



- ガイドバーの耐用年数を延ばすには、バーの上下を毎日入れ替えてください。

警告！チェンソー事故の大半は、チェンが使用者に当たった際に発生します。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」を参照してください。

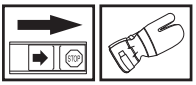
技能を超えていると感じる作業を、無理に進めないでください。「使用者の身体保護具」、「キックバックの避け方」、「ガイドバーとチェン」、「一般的な作業方法」参照を参照してください。

キックバックが起こりやすい状況を避けてください。「チェンソーの安全装置」を参照してください。

指定の防護具の使用・点検を守ってください。「一般的な作業方法」を参照してください。

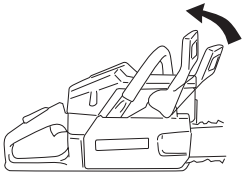
チェンソーの安全装置がすべて正常に機能しているか点検してください。「一般的な作業方法」、「安全に関する予備知識」を参照してください。

ガイドバーとチェンの取り付け

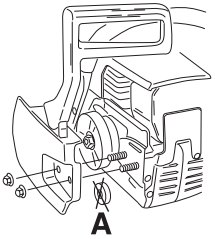


警告!チェンを取り扱う際は必ず手袋を着用してください。

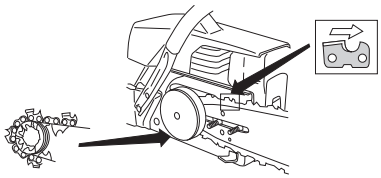
フロントハンドガードをフロントハンドルの方に動かして、チェンブレーキがかかっていないことを確認します。



バーナットとクラッチカバー(チェンブレーキ)を取り外します。輸送リング (A) も取り外します。

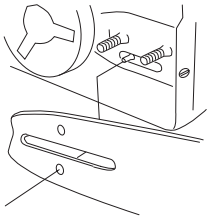


バーボルトにボルトを取り付けます。バーを最後尾に取り付けます。チェンをドライブスプロケットとガイドバーのレール溝に装着します。ガイドバーの上側から装着作業を始めてください。

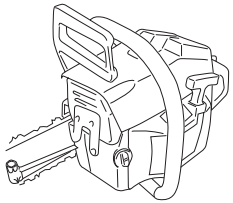


カッターリンクの刃がガイドバーの上側で前向きになっていることを確認します。

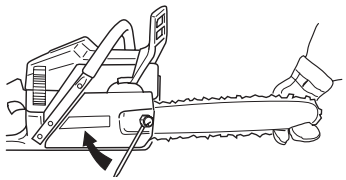
クラッチカバーを取り付け、チェン調整ピンをバーの穴に設置します。チェンのドライブリンクがドライブスプロケットの上に正しく乗っているか、チェンがガイドバーのレール溝にきちんと入っているかを確認します。バーナットを指できつく締めます。



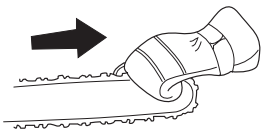
コンビレンチを使ってチェン張りネジを時計回りに回し、チェンを締めます。チェンがガイドバーの下側でたるまなくなるまで締めてください。



ガイドバーの下側にたるみがなく、しかもチェンを手で自由に回せる程度になったら、チェンは正しく張れています。バーの先端を持ち、バーナットをコンビレンチで締めます。

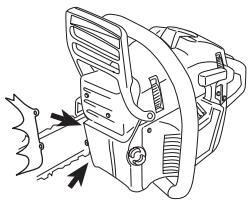


新品のチェンに取り替えたときは、チェンがなじむまで張り具合を頻繁に調整する必要があります。定期的にチェンの張りを確認してください。正しく張ったチェンは切れも良く、寿命も長く持ちます。



スパイクバンパーの取り付け

スパイクバンパーの取り付けについてはサービス代理店にお問い合わせください。



燃料

注記! 本機は 2 サイクルエンジンを搭載しているため、運転にはガソリンと 2 サイクルエンジンオイルとの混合燃料が必要です。正しい混合率を確保するためには、オイルの量を正確に計量することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな誤差でも配合に多大な影響を及ぼすことがあります。

警告!燃料を取り扱う際は、常に十分な換気を行ってください。

ガソリン

- ガソリンは良質のものをご使用ください。
- 注意! 触媒コンバーター付きのエンジンは、無鉛ガソリンしか使用できません。
- 有鉛ガソリンを使用すると触媒コンバーターが破壊され、その目的を果たさなくなります。触媒コンバーター付きのチェンソーにある緑色の燃料キャップは、無鉛ガソリンしか使用できないことを示しています。
- オクタン価 (ron) は 90 以上をおすすめします。オクタン価が 90 以下のガソリンを使用すると、ノッキングの原因となります。ノッキングが起きるとエンジンの温度が上がってベアリングの負荷が増大し、エンジンの深刻な損傷につながることがあります。
- 連続高速回転を必要とする作業（枝払いなど）には、ハイオクガソリンをおすすめします。

環境に優しい燃料

ハスクバーナ社は、Aspen（アスペン）2 サイクル燃料や 4 サイクルエンジン用のエコガソリンに 2 サイクルオイルを下表のとおり混合したものなど、アルキレート燃料の使用をおすすめします。燃料のタイプを変更した場合、キャブレターの調整が必要です。ご注意ください。（「キャブレター」参照。）

慣らし運転

最初の 10 時間は、高速にしすぎないでください。

2 サイクルオイル

- 最良の効果を得るには、ハスクバーナ 2 サイクルエンジンをご使用ください。このオイルは本機に使用される空冷 2 サイクルエンジン用として特別に調合されています。
- アウトボードオイルとも呼ばれる水冷式エンジン用の 2 サイクルオイルは絶対に使用しないでください（定格 TCW）。
- 4 サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。
- 低品質のオイルやオイルと燃料の比率が高すぎる場合、正常な作動の障害となったり触媒コンバータの寿命を縮める原因になります。

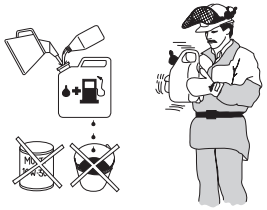
混合比

ハスクバーナ 2 サイクルオイルまたは相当のオイル
1:50 (2%)

JASO FB/ISO EGBまたはそれ以上の分類の空冷、2 サイク

ガソリン、L	2 サイクルオイル、L	
	2% (1:50)	3% (1:33)
5	0.10	0.15
10	0.20	0.30
15	0.30	0.45
20	0.40	0.60

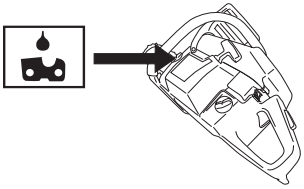
ルエンジン用として意図されたその他のオイル 1:33 (3%)



混合

- ガソリンとオイルを混合するときは、常に清潔な燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れます。燃料の混合物を良く混ぜ（振り）ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- チェンソーの燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ（振り）ます。
- 1 ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。
- チェンソーをしばらく使わないときは、燃料タンクを空にし、清掃してください。

チェンオイル



- 粘性の高い専用オイル（チェンオイル）の使用をおすすめします。
- 廃油は絶対に使用しないでください。オイルポンプやガイドバー、チェンの損傷の原因となります。
- 外気温に合わせ、正しいオイル（適正な粘着性）を使用することが重要です。
- 気温が 0 ℃ 以下になると、粘性が高くなりすぎるオイルもあります。オイルの粘性が高すぎるとオイルポンプに負担がかかり、ポンプのコンポーネントの損傷の原因となります。
- チェンオイルの選択に当たっては、お近くのサービス代理店にお問い合わせください。

燃料の取り扱い

給油

警告!火災を避けるため、以下の注意を守ってください。

燃料の近くで喫煙をしたり高温の物を置いたりしないでください。

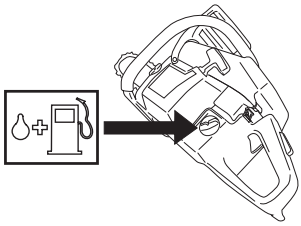
燃料を再注入する前に常にエンジンを止め数分間、温度を下げてください。

給油の際には、超過圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

給油後は燃料キャップをしっかり閉めてください。

チェンソーを始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

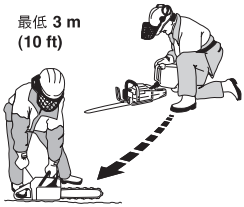
燃料キャップの周囲をきれいにします。燃料タンクとチェンオイルは、定期的な清掃が必要です。燃料フィルターは、少なくとも年に一度交換してください。タンク内に汚れが侵入すると、故障の原因となります。混合燃料は、給油前に良く振って混ぜてください。チェンオイルタンクと燃料タンクの容量は、お互い釣り合うように設計されています。チェンオイルタンクと燃料タンクは必ず同時に補充するようにしてください。



警告!燃料や燃料のガスは非常に引火性の高いものです。燃料やチェンオイルの取り扱いには十分注意してください。火災発生や爆発、有毒ガスの吸引などの危険にご注意ください。

燃料の安全について

- エンジンの走行中は絶対に給油を行わないでください。
- 燃料の補給や混合（ガソリンと 2 サイクルオイル）を行うときは、十分に換気してください)。
- 給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。



- 下記の条件では、決して本機を始動しないでください:

1 チェンソーに燃料やチェンオイルをこぼしたとき、きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。

2 皮膚や衣服に燃料をこぼしたときはまず着替え、皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。

3 燃料が漏れている場合は、燃料キャップと燃料ホースから漏れていないか、定期的に点検してください。

警告!スパークプラグガードやイグニッションケーブルに明らかな損傷のある場合、絶対にチェンソーを使用しないでください。スパークが発生し火災の原因となります。

搬送と保管

- チェンソーと燃料は、電気機器、電気モーター、リレーとスイッチ、ボイラーなど、火花や裸火を発するものから離して保管し、液体漏れやガスによる火災発生の危険性をなくしてください。
- 燃料の保管には、保管専用に承認された容器を使用してください。
- チェンソーを長期間保管する場合や搬送する場合は、燃料とチェンオイルを抜いて、両方のタンク内を空にしてください。廃油の廃棄方法については、お近くのガソリンスタンドにお問い合わせください。
- 搬送や保管の際は、チェンの鋭い刃先が人や物にぶつからないようガイドバーとチェンに必ずカバーを取り付けてください。チェンが作動していない場合でも、使用者や周りの人にチェンがぶつかると身体に重傷を負わせる原因になります。

長期間の保管

換気のよい場所で、燃料とオイルタンクを空にします。燃料は承認された缶に入れ安全な場所に保管してください。バーカバーをはめます。下記の条件では、決して本機を始動しないでください。詳細は「メンテナンス」を参照してください。

長期間保管する際は、必ず事前に本機を清掃し入念なサービスを行ってください。

始動と停止

警告!始動時には以下の注意点を守ってください:

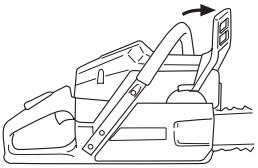
ガイドバーやチェン、すべてのカバー類が正しく装着されていない状態では、絶対にチェンソーを始動しないでください。クラッチが外れて負傷の原因となることがあります。

チェンソーを固い地面に置きます。足場が良いこととチェンが他の物に接触しないことを確認してください。

作業現場に関係者以外の人や動物がいないことを確認してください。

冷機エンジン

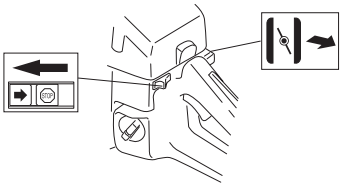
始動: チェンソーを始動する際は、必ずチェンブレーキをかけておいてください。フロントハンドガードを前に倒してブレーキをかけます。



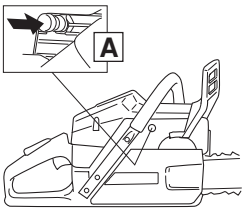
点火: 点火スイッチを左にスライドさせます。

チョーク: チョークコントロールをチョーク位置に設定します。

スタートスロットル: チョークコントロールをチョークの位置にすると、チョーク/スタートスロットルの正しい設定になります。

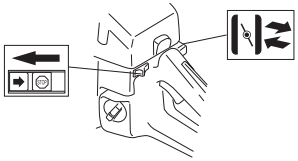


本機にデコンプバルブ (A) が取り付けられている場合:シリンダー内の圧力を下げ、始動を容易にするため、バルブを押します。本機を始動させるときは必ずデコンプバルブを使用してください。チェンソーが始動すると、バルブは自動的に元の位置に戻ります。



暖機エンジン

始動方法は冷機エンジンとほぼ同様ですが、チョークコントロールをチョークの位置に入れません。チョークコントロールを一度チョークの位置に引いてすぐ元に戻すと、チョーク/スタートスロットルは正しく設定されます。



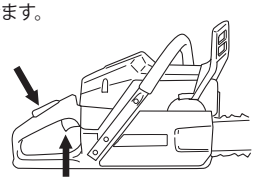
始動

左手で前ハンドルを握ります。右足でリヤハンドルを踏み、チェンソーをしっかり押さえます。右手でスターターハンドルを持ち、抵抗を感じるまで (スターター爪が噛み合うまで)スターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください。

注意!スターターロープをいっぱいに引き出し、引っ張った状態からスターターハンドルを急に放さないでください。チェンソーに損傷を与える可能性があります。

エンジンに点火したらすぐにチョークコントロールを押し、エンジンが始動するまでロープを引き続けます。エンジンが始動したら、すぐにフルスロットルにします。スロットルトリガーが自動的に作動します。

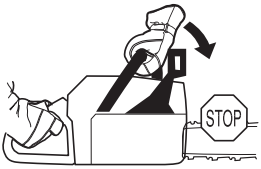
チェンブレーキがまだかかっているため、できるだけ速やかにスロットルロックを解除して、エンジンの回転数をアイドリングに落とす必要があります。こうすることにより、クラッチ、クラッチドラム、ブレーキバンドを不要な摩耗から守ることができます。



警告!エンジンの排気ガスやチェンオイルのミスト、切りくずの粉塵などを長期間にわたって吸引すると、健康を害する原因となることがあります。

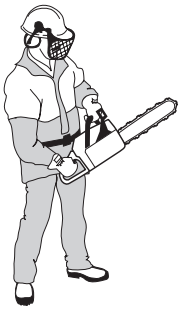
- ガイドバーやチェン、すべてのカバー類が正しく装着されていない状態では、絶対にチェンソーを始動しないでください。「組み立て」を参照してください。チェンソーにバーとチェンが付いていないと、クラッチが外れて重傷を負う原因となります。

- チェンソーを始動する際は、必ずチェンブレーキをかけてください。始動方法は「始動と停止」を参照してください。チェンソーは中に浮かせて始動しないでください。そうすると、チェンソーのコントロールを失いやすく、極めて危険です。

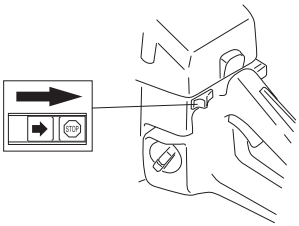


- 本機を室内で始動しないでください。排気ガスを吸入すると危険です。
- 周囲を良く見回し、人や動物がチェンに触れる危険がないことを確認してください。

- チェンソーは常に両手で持ってください。右手でリヤハンドル、左手でフロントハンドルを握ってください。右利き、左利きに関わらず、必ずこの握り方をしてください。親指と他の指で取り囲むようにしっかりチェンソーのハンドルを握ります。

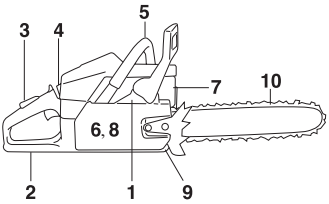


停止



ストップスイッチを停止位置に押すと、エンジンが停止します。

使用前に、以下の項目を点検してください。



1 チェンブレーキが正しく機能し、損傷がないことを確認します。

2 リヤ右手ガードに損傷がないことを確認します。

3 スロットルロックが正しく機能し、損傷がないことを確認します。

4 ストップスイッチが正しく機能し、損傷がないことを確認します。

5 ハンドル部にオイルが付着していないことを確認します。

6 防振装置が正しく機能し、損傷がないことを確認します。

7 マフラーがしっかりと固定され、損傷がないことを確認する。

8 チェンソーのすべてのボルト類にゆるみがないか、また損傷を受けたりなくなったりしていないか確認します。

9 チェンキャッチャーが指定位置に取り付けられ、損傷がないことを確認します。

10 チェンの張り具合を点検してください。

一般的な作業方法

重要!

このセクションでは、チェンソーの使用に際しての基本的な安全注意事項について説明しています。記載された情報は、専門家の技術や経験に相当するものではありません。安全性に懸念が生じたら、作業を停止し、専門家のアドバイスを受けてください。チェンソーをお買い上げになった販売店、サービス代理店やチェンソー使用の経験が長い人などに相談してください。確信をもてない作業は行わないでください!

チェンソーを使用する前に、キックバック現象とその避け方について理解してください。「キックバックを避ける方法」の項の説明を参照してください。

チェンソーを使用する前に、ガイドバーの上側で切る場合と下側で切る場合との違いを理解してください。詳細は、「キックバックの避け方・チェンソー安全装置の点検」を参照してください。

身体保護具を着用してください。「身体保護具」の項の説明を参照してください。

安全に関する基本事項

1 周囲を見渡してください。

- 近くの人や動物、または他の物がチェンソーの操作に影響しないことを確認します。
- 近くの人や動物、または他の物がチェンソーに接触したり、木が倒れるときに損傷を受ける危険性がないことを確認します。

注意!上記の事項は守らなければなりませんが、事故が起こった場合に助けを求めることができない状況下では、チェンソーを使用しないでください。

2 濃霧、豪雨、強風、厳寒など、気象条件の悪いときは、本機を使用しないでください。悪天候下での作業は、疲れやすく、また、地面が凍結していたり、予期せぬ方向に木が倒れるなどして危険です。

3 小枝を払うときは十分に注意してください。藪を切ること(多数の小枝を同時に切ること)は避けてください。小枝がチェンにはじき飛ばされ、重傷を負う原因になることがあります。

4 身体の動きが自由に取れ、足場が良いことを確認してください。とっさに身をかわさなければならない場合に邪魔になる物 (木の根、岩、枝、溝など) が周囲にあるかどうか確認してください。斜面での作業は特に注意してください。

5 張力のある枝や木を切るときは、最大の注意を払ってください。張力のある枝や木は、切る前や切った後に突然元の自然状態に反り返ることがあります。正しい姿勢でソーを持っていなかったり、誤った場所で作業を行うと使用者やチェンソーが木にぶつかり、コントロールを失う原因になります。このような状態が深刻な事故につながります。

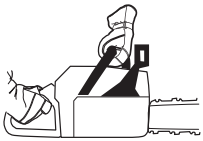
6 チェンソーを移動するときは、まずエンジンのスイッチを切り、チェンブレーキでチェンをロックしてください。ガイドバーとチェンを後ろ向きにして、チェンソーを持ち運びます。チェンソーを搬送するときは、搬送先がどんなに近くてもガイドバーにカバーを取り付けてください。

7 チェンソーを地面に置くときは、チェンブレーキでチェンソーをロックし、常にチェンソーが視野に入るようにしてください。チェンソーから離れるときは、どんなに短時間でもエンジンを切ってください。

一般的な原則

1 キックバックとは何か、またそれがどのようにして起こるのかを理解していれば、実際に発生したときにうろたえずに対応できます。予備知識は危険の軽減にもつながります。キックバックは通常小さいものですが、時に突然激しく発生することがあります。

2 右手でリヤハンドルを、左手でフロントハンドルを握って、チェンソーをしっかりと持ってください。親指とその他の指でハンドルを包むように持ちます。右利き、左利きに関わらず、この方法で握ってください。キックバックの影響を最小限に抑え、チェンソーのコントロールを保つのに適した握り方です。ハンドルから手を放さないでください。



3 キックバックのほとんどは枝払いの際に発生します。足場が良く、邪魔になるものやつまずいたりバランスを失ったりする原因になるものがないか、確認してください。

集中力が欠けると、近くの枝をキックバックゾーンにうっかり当ててしまい、キックバックの原因となります。

鋸断物に注意します。切ろうとしている木が小さく軽い場合、木がチェンに入り込み、使用者に向かってはじき飛ばされることがあります。これ自体は危険ではなくても、使用者がびっくりして、チェンソーのコントロールを失うことがあります。絶対に積み上げられた木や枝を、切り離さないまま鋸断しないでください。一度に 1 本だけ切ってください。安全に作業できるように鋸断木片は取り除いてください。

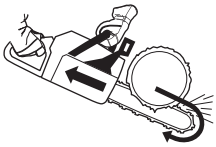
4 肩より高い位置でのチェンソーの使用や、ガイドバー先端の使用は絶対におやめください。絶対にチェンソーを片手で操作しないでください!

5 チェンソーを完全にコントロールできるよう、安定した足場を確保してください。はしごや木の上など、足場が安定しない場所では絶対に作業をしないでください。

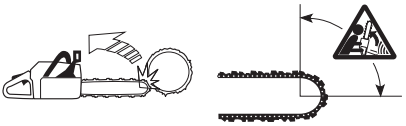
6 常にフルスロットルで作業してください。

7 ガイドバーの上側で切るとき、つまり木の下側から切るときは特に注意してください。これは押し切りともいいます。このとき、チェンソーを使用者のほうに押し戻そうとする力がチェン内に働きます。チェンが詰

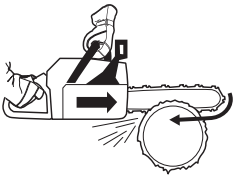
まると、チェンソー本体が使用者に向かって押し返されることがあります。



8 この力を抑えきれないとチェンソーが徐々に後退し、ついにはキックバックゾーンが木に接触する状態となってキックバックが発生します。



ガイドバーの下側で切る方法、つまり木の上から下に向かって切る方法を引き切りといいます。このときチェンソーは自ら木のほうに引き寄せられ、チェンソー本体の前端がちょうど幹に乗る格好となります。引き切りの方が、チェンソーやキックバックゾーンの位置の制御が簡単です。



9 ガイドバーとチェンの目立て・メンテナンス方法の指示を守ってください。ガイドバーとチェンを交換する際は、弊社指定の組み合わせのみをご使用ください。詳細は「ガイドバーとチェン」、「主要諸元」を参照してください。

基本的鋸断技術

警告!決してチェンソーを片手で握らないでください。片手ではチェンソーのコントロールが十分にできません。常に、ハンドルを両手でしっかりと握ってください。

一般注意事項

- 常にフルスロットルで切ってください。
- 切り終えるごとにスピードをアイドリングに落とします。(チェンに抵抗がかからない無負荷の状態でエンジンを長時間フルスロットル運転すると、深刻なエンジン損傷の原因となることがあります)。
- 上から切る = 引き切り。
- 下から切る = 押し切り。

押し切りはキックバックの危険を増加させます。「キックバックを避ける方法」の項の説明を参照してください。

語句について

鋸断＝一般的に木を切ること

枝払い＝切り倒した木の枝を取り除くこと

裂ける＝切り終わる前に切っている木が裂けてしまうこと

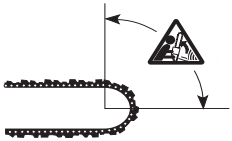
実際に切り始める前に考慮すべき重要なポイントが 5 つあります。

1 鋸断中にガイドバーとチェンが切り口に挟まれないようにしてください。

2 切っている木が裂けないようにしてください。

3 鋸断中や鋸断後、チェンが地面や他の物に接触しないようにしてください。

4 キックバックの危険性はありませんか。



5 周囲の地面や状況で、作業中の安全や機動性に影響することはありませんか。

チェンが挟まれたり木が裂けたりするのには、2 つの要因があります。ひとつは鋸断前後における木の支え方、もうひとつは木が張力を持っているかどうかです。

ほとんどの場合、まず上から、次に下からと 2 段階に分けて切ることによってこれらの問題を回避することができます。チェンが挟まれたり鋸断中に裂けたりしないよう、木を支える必要があります。

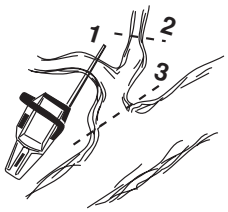
重要! 鋸断中にチェンが挟まれてしまったら、エンジンを止めてください。チェンソーを力任せに引き抜こうとしないでください。チェンソーを引き抜いた瞬間にチェンが外れて負傷する恐れがあります。てこなどで切り口を広げ、チェンソーを抜き取ります。

次に、チェンソーの使用中に遭遇する、もっとも典型的な場面での対応の仕方を説明します。

枝払い

太い枝を払うときは、木の鋸断方法と同じテクニックを用います。

難しい枝は数回に分けて切ってください。



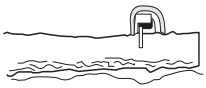
鋸断

> 警告!堆積した木や複数の木を同時に鋸断しないでください。そうすると、キックバックの起こる危険性が増大し、深刻な、時には致命的な障害を引き起こすことがあります。

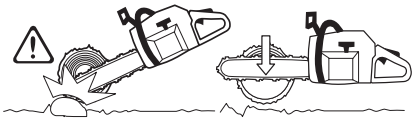
鋸断する木材が積まれている場合、木材を 1 つずつ取って鋸断台に置き、1 つずつ鋸断してください。

鋸断作業場から作業済み木片を撤去してください。木片を作業場に放置しておくと、不注意によるキックバックが起こる危険性や作業中に使用者がバランスを崩す危険性が増します。

木は地面に倒れています。チェンが挟まれたり木が裂けたりする危険はほとんどありません。しかし、切り終わったときにチェンが地面に接触する恐れがあります。



上からまっすぐ下へ、木を切ります。切り終わるときにチェンが地面に接触しないよう、気をつけてください。フルスロットルで切りますが、次の瞬間に起こり得る事態に常に備えてください。



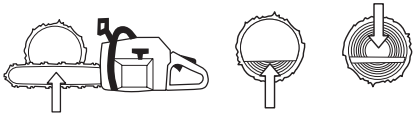
木を転がすことが可能であれば、全体の 2/3 を切ったところで 1 度止めます。

木を転がし、反対側から切り終えます。

木は一方の端で支えられています。木の裂ける可能性が高くなります。

下側から (およそ 1/3 のところまで) 切り始めます。

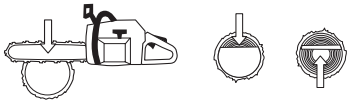
切り口が合うように、上から切ります。



木の両側に支えがあります。チェンの挟まれる危険性が高くなります。

上側から (およそ 1/3 のところまで) 切り始めます。

切り口が合うように、下から切ります。

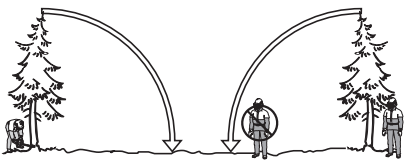


伐倒技術

> 重要! 伐倒には多くの経験が必要です。チェンソー使用の経験が浅い人は伐倒を行わないでください。確信をもてない作業は行わないでください!

安全な距離

切ろうとする木と周囲の作業者との安全な距離は、少なくとも木の 2.5 倍の長さが必要です。伐倒前・中は、この「危険ゾーン」内に誰もいないことを確認してください。



作業技術

伐倒の方向

その後の枝払いや玉切りにもっとも都合の良いように、伐倒の方向を決めます。良好な足場と機動性を確保できる場所に倒すことが必要です。

倒したい方向を決めたら、木が自然に倒れる方向を見極めます。

倒れる方向の判断材料

- 木の傾き
- 屈曲
- 風向き
- 枝の生え方
- 雪の重さ
- 木との間の障害物：その他の木、電気ケーブル、道路、建物など
- 幹に破損や腐敗がないか調べてください。破損や腐敗があると木はそこから折れて気が付かないうちに倒れることがあります。

場合によっては、これらの要素により、初めに決めた方向に倒すのは不可能あるいは危険であることが判明し、木が自然に倒れるに任せざるを得ないこともあります。

伐倒方向には関係ないながら作業者の安全に大いに関わることとして、伐倒中に折れて頭上に落ちてきそうな割れ枝や枯れ枝がないかどうかを確認することも、非常に重要です。

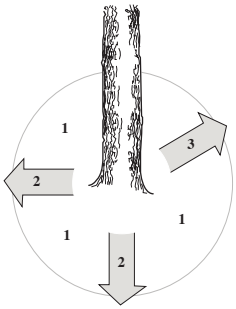
もっとも避けたいのは、伐倒した木が他の木に倒れかかることです。他の木に倒れかかった木を外す作業は危険で、事故の確率も高くなります。詳細は「かかり木の処理」を参照してください。

重要! 伐倒作業では、木を切り終わったら直ちにイヤマフを外してください。木が倒れるときの音や危険な兆候を聞き取る必要があります。

枝払いと退避路の確保

肩より高い位置での枝払いは行わないでください。上方の枝から作業を始め、常に身体をチェンソーの間に幹を置くようにしてください。

木の周辺の下草や茂みを払い、木が倒れ始めたときの退避路に障害物（石や枝、穴など）がないかどうかを確認します。退避路は、伐倒見込み方向から約 135 度の角度になるように取ります。



1　危険ゾーン

2　退避路

3　伐倒の方向

伐倒

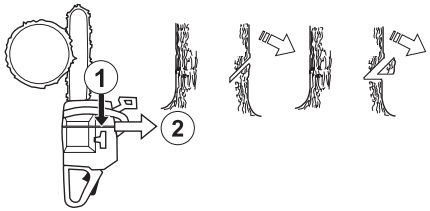
警告!特別な訓練を受けていない限り、チェンソーのガイドバーの長さより直径の大きい木を切ることはお勧めできません!

木は 3 つの切り口によって切り倒します。まず、木の倒れる方向を決める受け口を作ります。受け口は上切り口と下切り口から成っています。次に追い口を作ります。これらの切り口を正確に作ることによって、木の倒れる方向を非常に正確にコントロールすることができます。

受け口

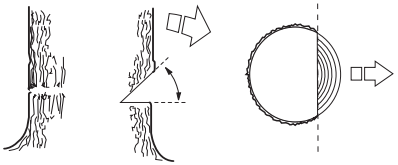
受け口は、まず上切り口から作ります。チェンソーの伐倒方向マーク (1) を使用して、木を倒れさせたい地面の前方に向けます (2)。木の右手側、チェンソーの後ろに立ち、押し切りで切断を行います。

次に下切り口を作ります。上切り口の終端と出会うように切り進みます。



受け口は幹の直径の 1/4 に当たる深さに、また上切り口と下切り口の角度は 45° になるようにします。

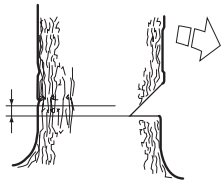
2 つの切り口が出会ってできる線を、受け口線と呼びます。この線は完璧に水平で、木の倒れるべき方向に対して直角(90°)になるようにしてください。



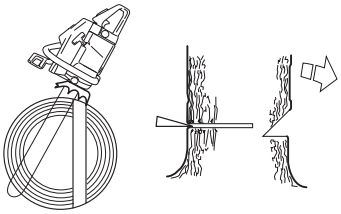
追い口

追い口は木の反対側に作り、完璧に水平である必要があります。木の左側に立ち、バーの下側を使って切ります。

受け口の下切り口から約 3〜5cm (1.5〜2 インチ)上に追い口を作ります。

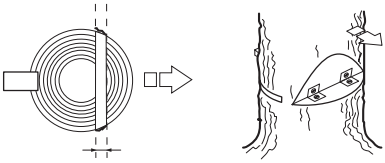


スパイクバンパーが取り付けられている場合、これをつるのすぐ後ろに準備します。フルスロットルにして、チェンソー/ガイドバーを木にゆっくりと入れます。木が伐倒方向とは逆の方向に動き始めないよう、注意します。十分に深くなったら、すぐに切り口にクサビやフェリングレバーを入れます。



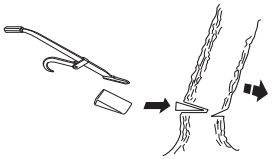
受け口線と追い口との間が少なくとも幹の直径の 1/10 の長さになるように、受け口線に平行に追い口を切り終えます。幹のこの切らない部分をつると呼びます。

つるは、木の倒れる方向をコントロールする役目をします。

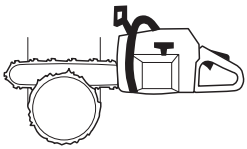


つるの幅が狭すぎたりまったくない場合、また、受け口と追い口の位置が悪い場合は、倒れる方向をコントロールすることができなくなります。

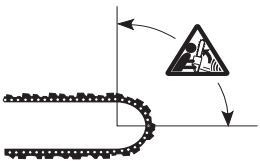
追い口と受け口が完成すると、木は自らの重みで、あるいはクサビやフェリングレバーの助けを借りて倒れ始めます。



木の直径より長いガイドバーの使用をおすすめします。ガイドバーが十分に長いと、追い口や受け口を 1 回の切り込みで作ることができます。お持ちのチェンソーに合った推奨されているガイドバーの長さについては、「主要諸元」を参照してください。



ガイドバーより幹の直径が長いときの伐倒方法もあります。しかし、ガイドバーのキックバックゾーンが木に接触する危険性が非常に高くなります。



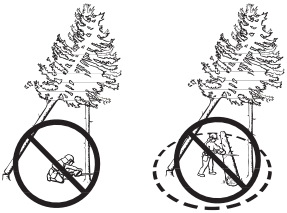
伐倒がうまくいかなかった木の処理

「かかり木」の処理

他の木に倒れかかった木を外す作業は危険で、事故の確率も高くなります。

引っかかった木は絶対に倒さないでください。

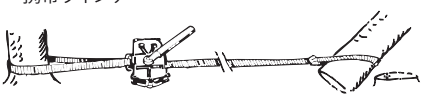
引っかかった木のある危険ゾーンでは作業をしないでください。



もっとも安全なのはウインチを使う方法です。

- ウインチ付きトラクター

- 携帯ウインチ



張力を持つ木や枝の鋸断

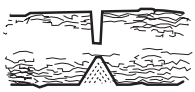
準備として、準備張力があるのはどちら側か、また、張力の最大点はどこにあるか (つまり、さらに曲げたらどこで折れるか) を見極めます。

どの方向に張力を逃がすのがもっとも安全か、また、それを安全に行えるかどうかを判断します。複雑な状況での唯一安全な方法は、チェンソーの使用を止め、ウインチを用いることです。

一般的アドバイス

木や枝の張力が放たれたとき、当たらない場所に立ちます。

張力最大点の真上または近くに、1 ヵ所または複数の切り口を作ります。張力を逃がし張力最大点で木や枝が折れるのに十分な深さと数の切り口が必要です。



張力のある木は、絶対に 1 度で切り倒そうとしないでください。

木や枝を鋸断しなくてはならない場合は、約 2.5 cm 間隔で約 5 cm の深さの切れ込みを 2、3 箇所入れます。

木や枝の屈曲や張りがなくなるまで深く鋸断を続けます。

張りが開放されたら、木や枝を屈曲の外側から切断します。

キックバックの避け方

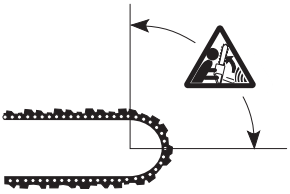
警告!キックバックは突然激しく起こることがあります。チェンソーがはじき返されてガイドバーとチェンが使用者に向かってくる現象を言います。チェンの走行中にキックバックが発生すると、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。キックバックが起こる理由を理解し、正しい技術と慎重な作業で発生を避けることが非常に重要です。

キックバックとは何か?

キックバックとは、ガイドバーの先端上部 1/4 のところ (キックバックゾーン) が何か他のものに接触し、チェンソーが突然激しくはじき返される現象を言います。

キックバックは、常にガイドバーの切削面で起こります。通常、チェンソーがガイドバーを先にして、使用者の方に斜め上にはじき返されます。しかし、ガイドバーのキックバックゾーンが物に接触したとき、チェンソーは使用方法によっては異なる方向に動くことがあります。

キックバックは、ガイドバーのキックバックゾーンに何かが接触したときにのみ起こります。



枝払い

> 警告!キックバックのほとんどは、枝払いの際に発生します。ガイドバーのキックバックゾーンを使用しないでください。ガイドバーの先端が木やその他の枝または物体に触れないように細心の注意を払ってください。張力のある枝を取り扱うときは、細心の注意を払ってください。使用者に跳ね返り、操作のコントロールができず怪我をする原因になります。

良い足場と機動性を確保してください。幹の左側に立って作業をします。チェンソーをできるだけ身体に近づけて持ち、コントロールを失わないようにします。可能な場合は、チェンソーの重みを幹にかけます。

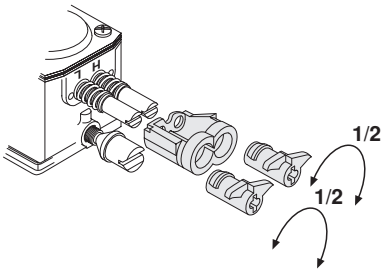
身体とチェンソーの間に幹がくるように、幹に沿って作業を進めます。

玉切り

「基本的鋸断技術」を参照してください。

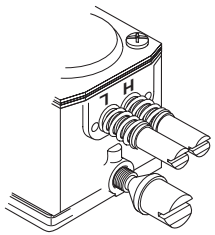
キャブレターの調整

適用される環境と排出に関する法律に従って、キャブレターは様々に設計されています。いくらかのチェンソーには、キャブレターの調整ネジに可動リミッターが搭載されています。これらのリミッターにより、調節できるのは最高 1/2 回転までとなっています。



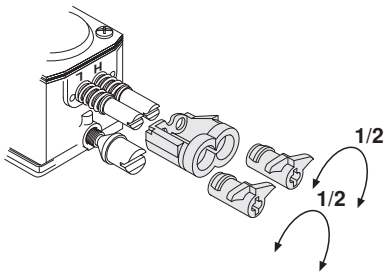
チェンソーが可動リミッターが搭載されているキャブレターを装備している場合、キャブレターを「可動リミッターを搭載したキャブレター」の項目に記載される指示に従って調整してください。

チェンソーが可動リミッターを搭載していないキャブレターを装備している場合、キャブレターは「可動リミッターを搭載していないキャブレター」の項目に記載される指示に従って調整してください。



チェンソーが装備しているキャブレターの種類がわからないときは、サービス代理店（販売店）にお問い合わせください。

可動リミッターを搭載したキャブレター



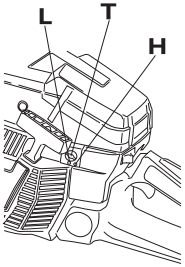
ハスクバーナ社の製品は、有害な排気ガスを軽減するような仕様に設計・製造されています。

機能、基本設定、微調整

警告！ガイドバー、チェン、クラッチカバー（チェンブレーキ）が取り付けられていない状態ではチェンソーを始動させないでください。クラッチが外れ、傷害を招くことがあります。

機能

- キャブレターはスロットルトリガーを介してエンジンの速度を制御します。
  キャブレター内で空気と燃料が混合されます。空燃比は調節可能です。本機の性能を最大限に引き出すには、正しく調整することが重要です。
- キャブレターを調整するということはすなわち、使用地域の気候や標高、ガソリンや 2 サイクルオイルのタイプなど、個々の条件に合わせてエンジンを適応させるということです。
- キャブレターには 3 種類の調整ネジがあります。
  - L = 低速ネジ
  - H = 高速ネジ
  - T = アイドリング調整ネジ



- L ネジと H ネジは、スロットルが開くことによって流入する空気量に比例して必要となる燃料の量を調節するのに使用します。
  ネジは、時計方向に回すと空燃比が希薄に（燃料が少なく）なり、反時計方向に回すと濃厚に（燃料が多く）なります。空燃比が希薄だとエンジンの速度が速くなり、濃厚だと遅くなります。
- T ネジはアイドリングでのスロットル設定を調節します。T ネジを時計方向に回すとアイドリングの速度が速くなり、半時計方向に回すと遅くなります。

基本設定と慣らし運転

キャブレターは工場出荷時のテストに伴い、基本設定に調整されています。最初の 10 時間は、長期間高速にしすぎないでください。

注意！アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。

推奨アイドリング速度：2500 min^{-1}

警告！アイドリングの速度設定ができずチェンが停止しない場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。チェンソーのご使用は調整または修理が完了するまでお控えください。

微調整

慣らし運転を終えたら、キャブレターの最終的な調整を行います。微調整は資格のある人が行うようにしてください。まず L ネジ、次にアイドリング T ネジ、最後に L ネジを調整します。

燃料タイプの変更

燃料のタイプを変更した後、始動や加速、最高速度などの状態が変更前と異なる場合は、チェンソーの微調整が必要です。

状態

- 調整を行う前に必ずエアフィルターを清掃し、シリンダーカバーを取り付けてください。エアフィルターが汚れたままキャブレターの調整を行うと、後にフィルターを清掃したときに空燃比が希薄になってしまいます。これはエンジンの深刻な損傷につながります。
- L ネジと H ネジは、ストップ位置を越えて無理に回そうとしないでください。損傷の原因となることがあります。
- 始動方法に従ってチェンソーを始動し、温まるまで約 10 分運転します。注意!アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。
- ガイドバーが向こうを向くように、またバーやチェンが地面や他の物と接触しないように、平らな場所にチェンソーを置きます。

低速ジェット L ネジ

L ネジを止まるところまで時計方向に回します。エンジンの加速状態が悪かったりアイドリングが不安定な場合は、状態が良くなるまで L ネジを反時計方向に回してください。

注意!

アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。

アイドリング T ネジの微調整

アイドリングの調整はTネジで行います。調整が必要な場合は、エンジンがかかっている状態で、まず T ネジをチェンが走行し始めるまで時計方向に回します。次にチェンが停止するまで反時計方向に回します。どの位置でもエンジンがスムーズに回転し、チェンが走行し始める までの回転数に余裕があれば、アイドリングスピードは正しく調整されています。

> 警告!アイドリングの速度設定ができずチェンが停止しない場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。チェンソーのご使用は調整または修理が完了するまでお控えください。

高速ジェット H ネジ

工場出荷時のエンジンは海抜ゼロ時に合わせて調整されています。海抜高度の高い場所や異なる気候条件や気温、湿度下で使用する場合、高速ネジの微調整が必要になることがあります。

注意!高速ネジを締めすぎると、ピストンやシリンダーの損傷の原因となることがあります。

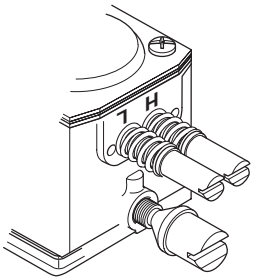
工場における試運転では、エンジンが最高の性能を発揮すると同時に法的規則を満たすよう、高速ネジを設定しています。その後キャブレターの高速ネジはいっぱいに緩めた位置で、リミッターキャップでロックされています。リミッターキャップは、最高半回転分しか高速ジェットの調節ができないように制限します。

キャブレターの調整を正しく行うには、回転計を持っている整備士にご相談ください。

適正調整のキャブレター

キャブレターが適正に調整されていると、チェンソーの加速がスムーズに行われ、フルスロットルでわずかに 4 サイクル音となります。アイドリングでチェンが走行しないことも重要です。低速ネジの設定が希薄すぎると、始動困難や加速不良の原因となります。高速ネジの設定が希薄すぎると出力不足や加速不良になり、さらにエンジン損傷につながることがあります。

可動リミッターを搭載していないキャブレター



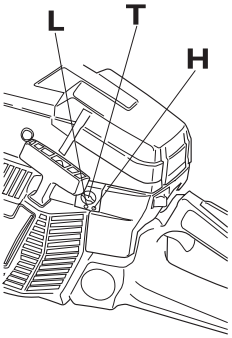
機能、基本設定、微調整

> 警告!ガイドバー、チェン、クラッチカバー（チェンブレーキ）が取り付けられていない状態ではチェンソーを始動させないでください。クラッチが外れ、傷害を招くことがあります。

機能

- キャブレターはスロットルトリガーを介してエンジンの速度を制御します。キャブレター内で空気と燃料が混合されます。空燃比は調節可能です。本機の性能を最大限に引き出すには、正しく調整することが重要です。
- キャブレターを調整するということはすなわち、使用地域の気候や標高、ガソリンや 2 サイクルオイルのタイプなど、個々の条件に合わせてエンジンを適応させるということです。
- キャブレターには 3 種類の調整ネジがあります。
  - L = 低速ネジ
  - H = 高速ネジ

- T = アイドリング調整ネジ



- T ネジはアイドリングでのスロットル設定を調節します。T ネジを時計方向に回すとアイドリングの速度が速くなり、半時計方向に回すと遅くなります。

基本設定と慣らし運転

キャブレターは工場出荷時のテストに伴い、基本設定に調整されています。基本設定では、H = 1 回転、L = 1 回転です。エンジンの構成部において（ならし運転中の）初期潤滑をよくするため、チェンソーが使用される最初の 3-4 時間、空燃比を濃厚にするようキャブレターを設定しておく必要があります。このためには、許容エンジン回転数を、推奨される許容エンジン回転数よりも 600-700 min^{-1} 下に調整します。

回転速度計を使用してエンジン高回転数の検査をすることができないときは、H ネジを基本設定よりも希薄な空燃比に設定してはいけません。推奨される許容エンジン回転数を超過してはいけません。注意!アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。

微調整

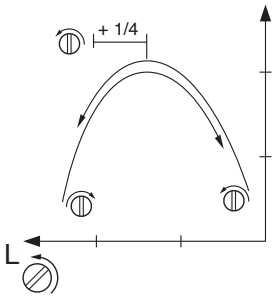
慣らし運転を終えたら、キャブレターの最終的な調整を行います。微調整は資格のある人が行うようにしてください。まず L ネジ、次にアイドリング T ネジ、最後に L ネジを調整します。

状態

- 調整を行う前に必ずエアフィルターを清掃し、シリンダーカバーを取り付けてください。エアフィルターが汚れたままキャブレターの調整を行うと、後にフィルターを清掃したときに空燃比が希薄になってしまいます。これはエンジンの深刻な損傷につながります。
- LネジとHネジを、時計回りに注意深く最後まで回します。両方のネジを反時計回りに 1 回転回します。キャブレターは H = 1、L = 1 に設定されています。
- 始動方法に従ってチェンソーを始動し、温まるまで約 10 分運転します。注意!アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。
- 本機を平面に置き、ガイドバーが使用者の方を向かないようにして、ガイドバーやチェンソーが床や他の物に接触しないようにします。

L ネジ

L ネジを時計回りに回し、次に反時計回りに回して、最高のアイドリング速度を確認します。最高のアイドリング速度が確認できたら、Lネジを反時計回りに 4 分の 1 回転回します。



注意!アイドリングでチェンが走行する場合は、チェンが停止するまで T ネジを反時計方向に回してください。

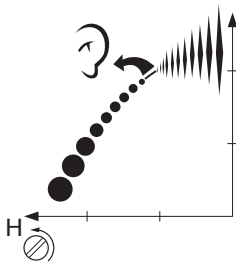
アイドリング T ネジの微調整

アイドリング速度の調整が必要な場合は、アイドリング調整 T ネジで行います。エンジンがかかっている状態で、まず T ネジをチェンが走行し始めるまで時計方向に回します。次にチェンが停止するまで反時計方向に回します。アイドリング速度を正しく調整すると、エンジンが全方向にスムーズに運転します。チェンが走行し始めるまでの回転数に余裕があれば、アイドリングスピードは正しく調整されています。

警告!アイドリングの速度設定ができずチェンが停止しない場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。チェンソーのご使用は調整または修理が完了するまでお控えください。

高速ジェット H ネジ

- 高速ジェット H ネジは本機の出力とエンジン速度に影響を与えます。高速ジェットネジの設定が高すぎる（H ネジの締めが過剰）とき、本機の回転数は過剰となり、エンジンに損傷を発生させます。本機をフルスロットルで 10 秒ほど運転させます。高速ジェット H ネジを反時計回りに 4 分の 1 回します。本機をフルスロットルで再度10秒間ほど運転させ、高速アイドリング速度の音の違いに注意します。さらに高速ジェット H ネジを反時計回りに回し、以上を繰り返します。



- 基本設定と比較して、本機は H =±0、H=+1/4 、H=+1/2 の設定で運転しています。フルスロットルでは、各設定で異なるエンジン音になります。高速 H ネジが正しく調整されているとき、本機がややゴボゴボとした音を立てます。本機が叫ぶような音を立てるとき、設定が希薄になりすぎています。マフラーが大量の煙を排出し、本機がゴボゴボとした音を多く出すとき、設定は濃厚になりすぎています。正しい音が出るまで、高速ジェット H ネジを時計方向に回して設定します。

注意! 正しい調整を行うには、資格を持ち、回転計を持っている整備士にご相談ください。推奨される許容エンジン回転数を超過してはいけません。

適正調整のキャブレター

キャブレターが適正に調整されていると、チェンソーの加速がスムーズに行われ、フルスロットルでわずかに 4 サイクル音となります。アイドリングでチェンが走行しないことも重要です。低速ネジの設定が希薄すぎると、始動困難や加速不良の原因となります。高速ネジの設定が希薄すぎると出力不足や加速不良になり、さらにエンジン損傷につながることがあります。

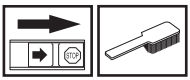
L ネジと H ネジの両方の設定が濃厚すぎると、加速に問題が発生したり、動作速度が遅くなりすぎたりします。

チェンソーの安全装置の点検、メンテナンス、サービス

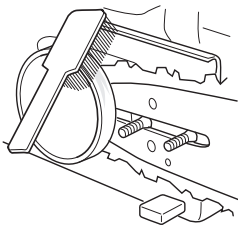
注意!本機に関するすべてのサービス、修理には、特別な研修が必須です。マシンの安全装置には、特にこのことが該当します。お手持ちのチェンソーの安全装置が以下のチェック項目の 1 つでも満たさない場合は、お近くのサービスショップに持参して修理を依頼することをお勧めします。

チェンブレーキとフロントハンドガード

ブレーキバンド摩耗の点検

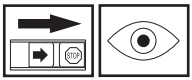


チェンブレーキとクラッチドラムから、木くず、樹脂、汚れなどをブラシで取り除きます。汚れや摩耗は、ブレーキ機能障害の原因となることがあります。



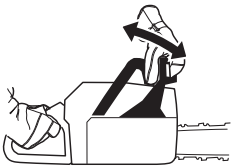
ブレーキバンドの厚みが少なくとも 0.6 mm あるかどうか、定期的に測定してください。

フロントハンドガードの点検



フロントハンドガードに損傷がないか、また、ヒビなどの目に付く外傷がないかどうかを点検します。

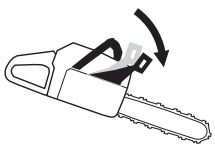
フロントハンドガードを前後に動かしてみて、スムーズに動くか、クラッチカバーで確実に止まるかなどを点検します。



イナーシャ式ブレーキの点検

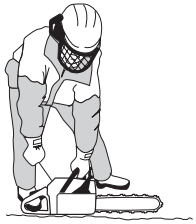
エンジンのスイッチを切って切り株または安定した場所にチェンソーを置きます。前ハンドルから手を離し後ろハンドルを回転軸にしてチェンソーが本体の重量で自然に切り株上に落ちるようにします。

ガイドバーが切り株に当たった瞬間、ブレーキがかかります。

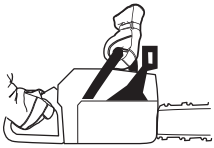


チェンブレーキハンドルの点検

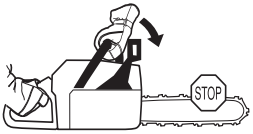
チェンソーを固い地面に置き、始動します。チェンが地面やその他の物に触れないよう、注意してください。始動方法は「始動と停止」を参照してください。



親指と残りの指でハンドルを包むようにして握り、チェンソーをしっかりと持ちます。

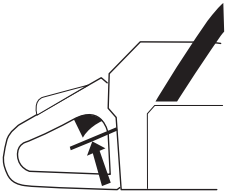


フルスロットルにしてから、左手首でフロントハンドガードを前に倒してチェンブレーキをかけます。このとき、フロントハンドルから手を放さないでください。チェンは直ちに停止します。

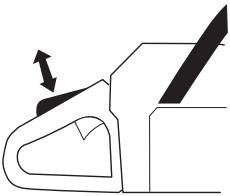


スロットルロック

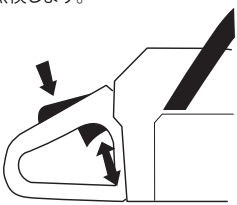
- スロットルロックを放したとき、スロットルトリガーがアイドリングの設定になっていることを確認します。



- スロットルロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。

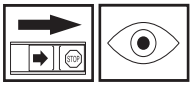


- スロットルトリガーとスロットルロックがスムーズに動き、リターンスプリングが正しく機能していることを点検します。

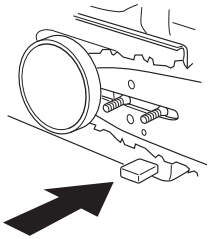


- チェンソーを始動し、フルスロットルにします。スロットルトリガーを放せばチェンの走行が停止し静止状態を保つことを確認します。スロットルトリガーがアイドリングの位置にあるにもかかわらずチェンが走行する場合は、キャブレターのアイドリング調整をチェックしてください。

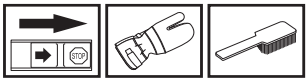
チェンキャッチャー



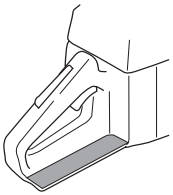
チェンキャッチャーに損傷がないか、チェンソー本体にしっかりと固定されているかどうかを点検します。



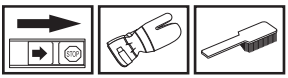
右手ガード



右手ガードに損傷がないか、ヒビなど見て明らかな欠陥がないかどうかを点検します。

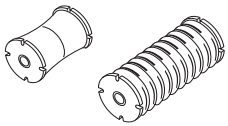


振動軽減システム

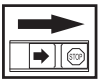


振動軽減システムにヒビや変形がないか、定期的に点検します。

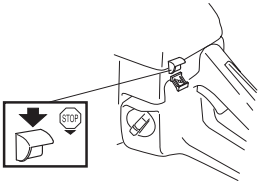
振動軽減システムがエンジンユニットとハンドルユニットにしっかり固定されていることを確認します。



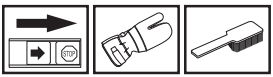
ストップスイッチ



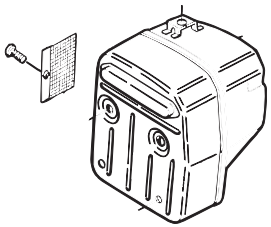
エンジンを始動し、ストップスイッチを停止設定にしたときにエンジンが停止することを確認します。



マフラー



マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。排気ガスは熱く、火花を生じさせるため、乾燥した、可燃性の物質に向けられると、火災を発生させることがあります。



特殊なスパーク防止ネットを備えているマフラーもあります。お持ちのチェンソーがこのタイプのマフラーの場合は、少なくとも週に 1 回、ネットを清掃してください。ワイヤーブラシでこするのがもっとも効果的です。ネットが詰まっているとエンジンがオーバーヒートを起こし、深刻な損傷につながることがあります。

注意!破損したネットは交換してください。ネットが詰まるとチェンソーはオーバーヒートを起こし、シリンダーやピストンの損傷の原因となります。また、マフラーの状態が悪いチェンソーは決して使用しないでください。スパーク防止ネットが装着されていなかったり、ネットに欠陥のあるマフラーは、決して使用しないでください。

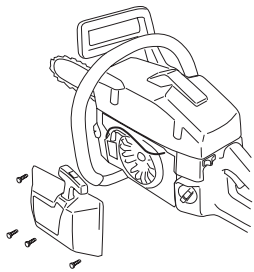
スターター

警告!リコイルスプリングがスターターハウジング内で引き締められているとき、それは張り切った状態にあり、不注意に取り扱うと飛び出して傷害をもたらすことがあります。

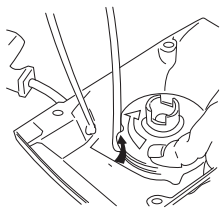
リターンスプリング、スターターロー プを交換する際は十分に注意してくだ さい。保護メガネおよび保護手袋を着用してください。

磨耗または破損したスターターロープの交換

- スターターをクランクケースに固定しているネジをゆるめ、スターターを外します。

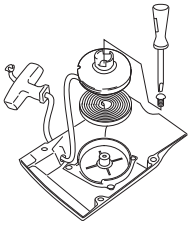


- ロープを約 30cm 引き出し、プーリー外周の切欠部にロープをかけます。リコイルスプリングを、プーリーをゆっくりと逆に回転させることにより、解放します。



- スタータープーリーの中心にあるネジを緩め、プーリーを引き上げます。新しいスターターロープをプーリーに挿入し、固定します。ロープをプーリーに約3回転分巻き

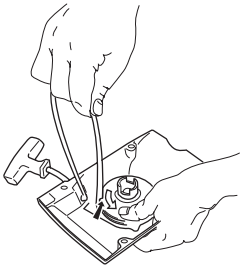
つけます。リコイルスプリングの端がプーリーに引っ掛かるように、プーリーをリコイルスプリングに取り付けます。プーリーの中心にネジを取り付けます。新しいスターターロープをスターターハウジングとスターターハンドルの穴に通します。ロープの端にしっかりと結び目を作ります。



リコイルスプリングの伸張

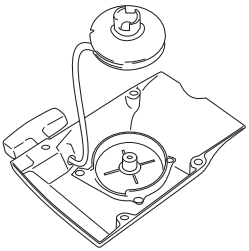
- スターターロープをプーリーの切欠部から引っ張り上げ、プーリーを時計方向に約 2 回転させます。

  注意!スターターロープがすべて引き出されたとき、プーリーが少なくともさらに 2 分の 1 回転できることを確認します。



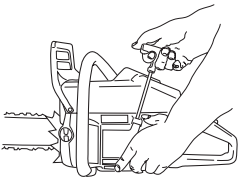
破損したリコイルスプリングの交換

- スタータープーリーを持ち上げます。「切れたり擦り減ったりしたスターターロープの交換」を参照してください。リコイルスプリングは、引っ張られた格好でスターターハウジング内に収まっていますので、注意してください。
- スターターからリコイルスプリングを備えたカセットを取り外します。
- リコイルスプリングに薄いオイルを塗布します。スターターにリコイルスプリングを備えたカセットを取り付けます。スタータープーリーを取り付け、リコイルスプリングを引き締めます。

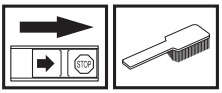


スターターの取り付け

- スターターを取り付けるには、まずスターターロープを引き出し、スターターをクランク室の所定の位置に置き取り付けます。次に、ゆっくりとスターターロープを開放し、プーリーが歯止めにかかるようにします。
- スターターを固定しているネジを取り付け、締めます。

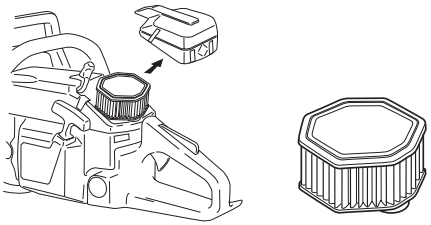


エアフィルター



下記のような問題の発生を防止するため、エアフィルターを定期的に清掃し、ホコリや汚れがたまらないようにしてください。

- キャブレターの故障
- 始動不良
- エンジン出力の減少
- エンジン部品の余計な摩耗
- 異常な燃料消費
- エアフィルターカバーを取り外し、エアフィルターを取り出します。再組み立て時は、エアフィルターとフィルターホルダーとの間に隙間ができないようにしてください。ブラシをかける、振るなどしてフィルターを清掃します。

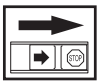


水と洗剤を使って洗うと、さらにきれいになります。

長期間使用したエアフィルターはどんなに洗っても完全にきれいにはなりません。定期的に新品のフィルタと交換してください。破損した エアフィルターは必ず交換してください。

ハスクバーナのチェンソーは、作業環境や気候、季節などに合わせて、異なるタイプのエアフィルターを取り付けることができます。詳細は、お近くの代理店にお問い合わせください。

スパークプラグ

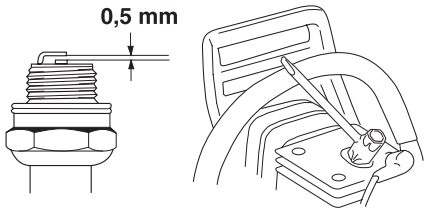


スパークプラグの状態は次の原因によって悪化します。

- 不適切なキャブレターの設定
- 誤った混合燃料 (オイル過多または間違ったオイルの使用)
- 汚れたエアフィルター

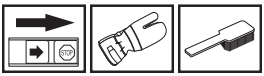
これらの原因により、スパークプラグの電極に付着物が生じ、結果として故障や始動不良を起こす可能性があります。

チェンソーの出力が低い、始動困難、アイドリング中の走行不良などの場合、まず始めにスパークプラグを点検してください。スパークプラグが汚れている場合は、清掃し、電極のギャップが 0.5 mm であることを確認します。スパークプラグは、1 か月間の動作後に、あるいは必要であればもっと早く、交換されなければいけません。

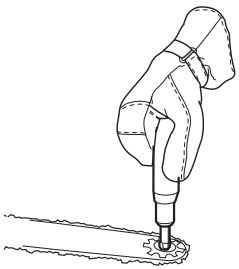


注意!スパークプラグは必ず推奨タイプのものを使用してください!不適正なスパークプラグは、ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。スパークプラグがサプレッサーに正しく装着されていることを確認します。

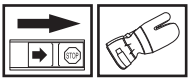
ノーズスプロケットの潤滑



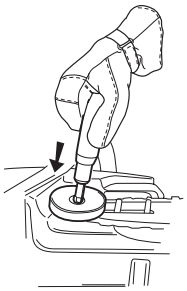
ノーズスプロケットは給油のたびに注油します。専用のグリースガンと良質のベアリンググリースを使用してください。



ニードルベアリングの注油

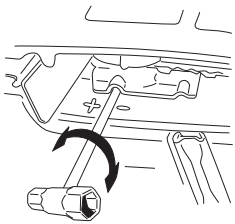


クラッチドラムには出力シャフトにニードルベアリングが付いています。ニードルベアリングは定期的に潤滑油を注入してください(1 週間に 1 度)。注意!高品質なベアリング潤滑油、またたオイルを使用してください。「ガイドバーとチェンの潤滑」を参照してください。



オイルポンプの調整

オイルポンプは調節可能です。ドライバーかコンビレンチでネジを回して調節します。機械は 1 回転開けた設定で工場出荷されます。ネジを時計方向に回すとオイルの量が減り、反時計方向に回すとオイルの量が増えます。



推奨の設定:

ガイドバー 18″-20″: 締めた位置から 0 回転。

ガイドバー 20″-24″: 締めた位置から 3/4 回転。

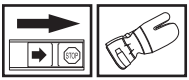
ガイドバー 24″-28″: 締めた位置から 1 1/2 回転。

ガイドバー 28″ 以上: 締めた位置から 1 3/4 回転。

上記の推奨はハスクバーナ社のチェンオイルに適用します。他社のチェンオイルの場合オイル流量が 1 段階増えます。

警告!調節する際は、必ず先にエンジンを切ってください。

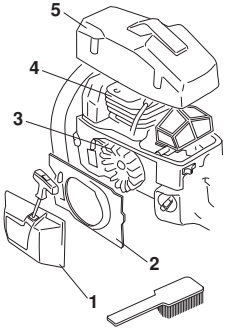
冷却システム



運転中の温度をできるだけ低く保つため、チェンソーは冷却システムを装備しています。

冷却システムは次のものによって構成されています。

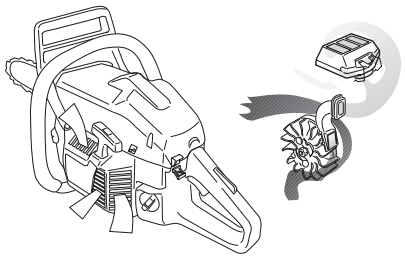
1 スターター装置の空気取り入れ口
2 通気ガイド
3 フライホイールの冷却フィン
4 シリンダの冷却フィン
5 シリンダーカバー（シリンダー上に冷気を導きます）。



1 週間に一度、あるいは過酷な条件での使用ならそれよりも多い頻度により、ブラシで冷却システムを清掃します。汚れた、あるいは詰まっている冷却システムは、チェンソーを過熱状態にし、ピストンやシリンダーに損傷を与えることになります。

遠心力クリーニング「エア・インジェクション」

遠心力クリーニングとは、次のことを意味します。空気はすべて、スターター装置を通ってキャブレターへ流入します。空気に含まれる汚れやホコリは、冷却ファンにより遠心分離されます。



重要! 遠心分離清浄システムの機能を維持するには、定期的なメンテナンスが必要です。スターター装置の吸気口、フライホイールのファン、フライホイール周辺のスペース、インレットパイプ、およびキャブレターユニットを清掃してください。

冬期の使用

本機を低温および降雪条件下で使用すると、以下の原因から作動に問題が生じることがあります。

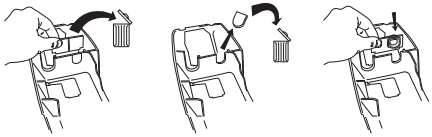
- エンジンの温度が低すぎる。
- エアフィルターやキャブレター内に着氷。

これらの問題を避けるには、特別な対策が必要です。

- スターター装置の吸気口を一部覆い、エンジンの運転温度を上げる。
- シリンダーとキャブレタースペースの間にあるシールを取り除き、キャブレターへの吸気エアの余熱を行う。

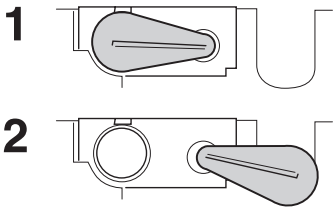
冬期キット取り付け

- パーティションを取り外し、破棄します。
- 図のように、ナイフを使って穴を切り抜いてください。
- 冬期プラグを取り付けます。



気温が 0°C またはそれ以下のとき：

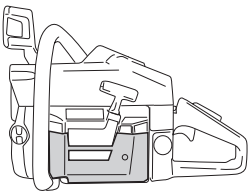
プラグを位置 1 から位置 2 へ移動させ、余熱されたエアがシリンダーからキャブレタースペースへ流入し、エアフィルターへの着氷を防ぎます。



注意! プラグが「エアインジェクション」のエアノズルに装備されている場合、エアフィルターを少なくとも 1 日に 1 回は清掃してください。

気温が -5°**C** またはそれ以下のとき：

冬期や粉雪が降るような天候でチェンソーを使用する場合は、スターターハウジングに取り付ける専用のカバーをご用意しています。カバーによって冷たい外気の流入が制限されるため、雪がキャブレター内に入り込むのをほぼ完全に防ぐことができます。

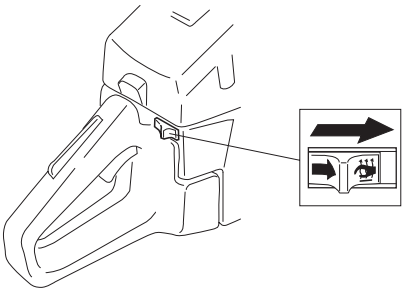


注意！チェンソーに冬期キットが装備されていたり、温度を上げるための対策が施されている場合は、通常の気温で使用する際にはこれらを取り外して元の状態に戻すようにしてください。エンジンがオーバーヒートを起こし、深刻な損傷につながる恐れがあります。

ヒーティングハンドル

(395XPG)

機種名に XPG/G がついているモデルは、前ハンドルの握り部分と後ろハンドルに電気コイルのヒーターが組み込まれています。電気コイルに供給される電気は、チェンソー内蔵の発電機によって生成されます。



スイッチが右に押されているとき、ヒーティングのスイッチがオンになっています。スイッチが左に押されているとき、ヒーティングのスイッチがオフになっています。

キャブレター電気ヒーター

(395XPG)

チェンソーのモデルコードが XPG の場合、キャブレターに電気ヒーターが組み込まれています。電気ヒーターはキャブレター内の着氷を防止します。サーモスタットによる制御で、キャブレターは常に運転に最適な温度に保たれます。

メンテナンスのスケジュール

本機に行うべきメンテナンスのリストを以下に示します。ほとんどの項目はメンテナンスのセクションで説明されています。

毎日行うメンテナンス	毎週行うメンテナンス	毎月行うメンテナンス
キャブレターの外側を清掃します。	触媒コンバーターの付いていないチェンソーは冷却システムを毎週点検してください。	チェンブレーキのブレーキバンドに摩耗が進んでいないかどうか点検します。磨耗箇所に 0.6 mm 未満しか厚みが残っていない場合は交換してください。
スロットルトリガーのコンポーネントが正しく機能するかどうか点検します。(スロットルロックおよびスロットルトリガー)	スターター、スターターロープ、リコイルスプリングを点検します。	クラッチハブ、クラッチドラム、およびクラッチスプリングの摩耗度を点検します。
チェンブレーキを清掃し、正しく動作するかどうか点検します。チェンキャッチャーに損傷がないかどうか点検し、必要に応じ交換します。	防振装置に損傷がないかどうか点検します。	スパークプラグを清掃します。電極ギャップが 0.5 mm あるかどうか点検します。
ガイドバーは毎日上下を入れ替え、均等に摩耗が進むようにしてください。ガイドバーの注油孔が詰まっていないことを確認します。ガイドバーのレール溝を清掃します。ガイドバーにノーズスプロケットがついている場合は、注油してください。	クラッチドラムベアリングに注油します。	キャブレターの外側を清掃します。
ガイドバーとチェンに十分な量のオイルが行き渡っているかどうか点検します。	ガイドバー縁のバリをヤスリで削り取ります。	燃料フィルターと燃料ホースを点検します。必要に応じ交換します。
リベットやリンクにヒビが入っていないか、ソーチェンが硬くなっていないか、リベットとリンクが異常に磨耗していないか点検してください。必要に応じ交換します。	マフラーのスパーク防止ネットを清掃、または交換します。	燃料タンクを空にして内部を清掃します。
チェンの目立てをし、張り具合と状態を点検します。ドライブスプロケットの摩耗度を点検し、必要に応じて交換します。	キャブレターユニットを清掃します。	燃料タンクを空にして内部を清掃します。
スターターの吸入口を清掃します。	エアフィルターを清掃します。必要に応じ交換します。	すべてのケーブルと接続部を点検します。
すべてのナットやボルト類が確実に締まっているかどうか点検します。		
ストップスイッチが正しく機能していることを確認します。		
エンジン、タンクまたは燃料ホースから燃料の漏れがないか、点検してください。		
触媒コンバーター付きチェンソーは冷却システムを毎日点検してください。		

主要諸元

	395XP
エンジン	
排気量、cm^3	94
シリンダー内径、mm	56
ストローク、mm	38.0
アイドル回転数、min^{-1}	2500
推奨最大速度、min^{-1}	12500
出力、kW/min^{-1}	4.9/8700
イグニションシステム	
メーカー	SEM
型式	CD
スパークプラグ	Champion RCJ 6Y
電極ギャップ、mm	0.5
燃料および潤滑システム	
キャブレターのメーカー/種類	Tillotson
キャブレターの型式	HS 298 A
燃料タンク容量、L	0.9
9,000 min^{-1} におけるオイルポンプ能力、cm^3/min	15-20
燃料タンク容量、L	0.5
オイルポンプの型式	自動
重量	
ガイドバーとチェン不装着およびすべてのタンクが空の場合、kg	7.9
騒音（注記 1 を参照）	
実測音響レベル dB(A)	114
保証音響レベル L_{WA} dB(A)	115
音量レベル (注記 2 参照)	
使用者の耳におけると同等な音圧レベル、国際基準に従って計測、dB(A)	101.5
振動レベル(注記 3 参照)	
フロントハンドル、m/s^2	6.5
フロントハンドル、m/s^2	10.2
チェン/ガイドバー	
標準のガイドバーの長さ、インチ/cm	18″/46
推奨のガイドバーの長さ、インチ/cm	18-36″/45-90
切断できる長さ、インチ/cm	17-35″/44-88
ピッチ、インチ/mm	3/8″ /9.52 0.404″/10.26
ドライブリンクの厚み、インチ/mm	0.058/1.5 0.063/1.6
ドライブスプロケットの型式/歯数	リム/7
最大出力におけるチェン速度、m/s	20.8

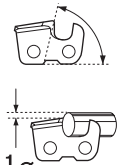
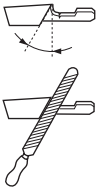
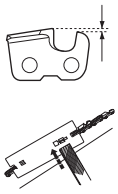
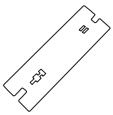
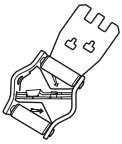
注記 1: EC 指令 2000/14/EC に則し音響効果 (LWA) として測定した、環境への騒音排出量
注記 2: 等価騒音レベルは ISO 7182 に則し、アイドリングと最高速度の作動状態における騒音レベルの時間加重エネルギーとして計算されます。1/2 アイドリング、1/2 最大速度。
注記 3: 等価振動レベルは ISO 7505 に則し、アイドリングと最高速度の作動状態における振動レベルの時間加重エネルギーとして計算されます。1/2 アイドリング、1/2 最大速度。

ガイドバーとチェンの組み合わせ

以下の組み合わせが CE 承認を受けたものです。

ガイドバー					チェン
長さ、インチ	ピッチ、インチ	溝幅、mm	ノーズスプロケットの最大歯数/最大ノーズ半径	型式	長さ、ドライブリンク (数)
18	3/8	1.5	11T	Husqvarna H42	68
20	3/8		11T		72
24	3/8		11T		84
28	3/8		11T		92
18	3/8		34 mm		68
20	3/8		34 mm		72
24	3/8		34 mm		84
28	3/8		34 mm		92
24	0.404	1.6	34 mm	Husqvarna H64	76
28	0.404		34 mm		84
30	0.404		42 mm		92
36	0.404		42 mm		104

チェンソーのヤスリがけとファイルゲージ

							
	インチ/mm				インチ/mm		
H42	**7/32" /5,5**	**60°**	**25°**	**10°**	**0,025"/ 0,65**	**5056981-01**	**5052435-01**
H64	**7/32" /5,5**	**85°**	**35°**	**10°**	**0,030"/ 0,76**	**5056981-02**	**5056981-15**

主要諸元

EC 適合宣言

（ヨーロッパのみ適用）

Husqvarna AB, SE-561 82 Huskvarna, Sweden 電話：+46-36-146500 は、単独責任のもとで宣言します。2002 年のシリアル番号以降（年は銘板に連続したシリアル番号と共に明記）のチェンソーHusqvarna 395XP/XPG は、評議会指令 (COUNCIL'S DIRECTIVES) の規定に適合しています。

1998 年 6 月 22 日付け「機械類に関する」 98/37/EC、付録 IIA

1989 年 5 月 3 日付け「電磁波適合性に関する」 89/336/EEC、および適用補足文書

2000 年 5 月 8 日付け 「環境への騒音排出に関する」 2000/14/EC

騒音排出に関する詳細は「主要諸元」の章を参照してください。以下の基準が適用されています：EN292-2、CISPR 12:1997、EN608。

試験機関：0363 Deutsche Prufstelle fur Land- und Forsttechnik, Weissensteinstr 70/72, DE-34131 Kassel, Germany が機械指令（98/37/EC）の条例 8、項目 2c に基づき EC タイプコントロールテストを実施しまし た。補足 VI に則した EC タイプコントロールの結果報告書番号は、K-EG 2890

さらに SMP、Svensk Maskinprovning AB、Fyrisborgsgatan 3、SE-754 50 ウプサラ、スウェーデンは、2000 年 5 月 8 日付けの「環境への騒音排出に関する」評議会指令 2000/14/EC の補足 V に適合することも認定しました。証明書の番号：01/161/019.

提供されたチェンソーは、ECタイプ審査を受けたサンプルに準拠しています。

ハスクバーナ、2002 年 1 月 3 日

Bo Andréasson、開発マネージャー

1151338-79

2009-02-18